

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	通いの場づくりの支援															
現状と課題																
少子高齢化が進んでいるが、高齢となつても地域の中で自らの経験や知識を生かし、社会的役割や生きがいを持って積極的に活動、活躍が出来るような地域づくりに努め、高齢者が引きこもりにならない様、地域づくりの場となる「通いの場」づくりに向けた支援が必要である。																
第7期における具体的な取組																
高齢者が主体となって、地域の身近な場所で様々な活動や交流を楽しみながら、いきいきと暮らし続けられるよう、地域づくりの場となる「通いの場」づくりに向けた支援を行う。																
目標（事業内容、指標等）																
<p>■見込量～通いの場への参加者数</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>通いの場参加者 (人) ※1</td><td>10</td><td>20</td><td>30</td><td>40</td></tr><tr><td>準参加者 (人) ※2</td><td>51</td><td>60</td><td>70</td><td>80</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	通いの場参加者 (人) ※1	10	20	30	40	準参加者 (人) ※2	51	60	70	80
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度												
通いの場参加者 (人) ※1	10	20	30	40												
準参加者 (人) ※2	51	60	70	80												
※1 通いの場参加者数～概ね週1回以上の活動実績があることを条件とする																
※2 準参加者数～概ね月1回以上、週1回未満の活動実績があることを条件とする																
目標の評価方法																
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">年度途中で対象者数を確定する事が出来ないため実施評価																

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	【】
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<p>高齢者が主体となって、地域の身近な場所で様々な活動や交流を楽しみながら、いきいきと暮らし続けられるよう、地域づくりの場となる「通いの場」づくりに向けた支援を行った。</p>
自己評価結果	【○】
	<p>通いの場参加者数　目標30人に対し実績10人（33.3%） 準参加者数　目標70人に対し実績69人（98.57%）</p>
課題と対応策	<p>生活介護支援センター（ボランティア）と通いの場をマッチングさせ、楽しみや役割をもった活動の場となるよう支援を継続する。 また、地域の自主的な集まりについて情報収集し、介護予防を目的とした支援を検討する。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者への交通費の支援
------	-------------

現状と課題

重度心身障がい者や高齢者等の交通弱者に対して、日常生活等に必要な外出時の交通利用に要する一部を支援し、買い物や人と人との交流・ふれあいを通して、地域福祉の増進と地域の活性化、地域交通の維持確保に資することを目的に「生き活きしらぬか外出支援事業」を実施している。

第7期における具体的な取組

タクシー券を町営バスにも利用できるよう、町内の交通の利便を図った。

目標（事業内容、指標等）

■高齢者への交通費の支援

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
件数(人)	1,102	1,070	1,100	1,100

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法

毎年基準日において事業の対象者を確定するため、年度末の利用実績を計上。

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
生き活きしらぬか外出支援助成事業実施要綱に基づいた対象者に毎年事業開始の案内を送付し、申請があったものに券を交付している。75歳に達しない高齢者のうち運転免許証を自主返納した町民も対象としている。
自己評価結果【】
令和元年度においての交付件数は1,125名であった。当該事業が高齢者等の生活に密着した事業になったものと評価している。町営バスにも利用できるよう要綱改正を行い、また、年度途中にも申請や利用促進のアピールを「広報しらぬか」に掲載するほか個別通知も行い利用促進対策をしている。
課題と対応策
運転免許証自主返納者の把握ができないため、当該事業の情報発信を広報しらぬかを利用し継続する。

後期（実績評価）

実施内容
生き活きしらぬか外出支援助成事業実施要綱に基づいた対象者に毎年事業開始の案内を送付し、申請があったものに券を交付している。75歳に達しない高齢者のうち運転免許証を自主返納した町民も対象としている。
自己評価結果【◎】
令和元年度においての交付件数は1,125名であった。当該事業が高齢者等の生活に密着した事業になったものと評価している。町営バスにも利用できるよう要綱改正を行い、また、年度途中にも申請や利用促進のアピールを「広報しらぬか」に掲載するほか個別通知も行い利用促進対策をしている。
課題と対応策
運転免許証自主返納者の把握ができないため、当該事業の情報発信を広報しらぬかを利用し継続する。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者活動の推進			
現状と課題				
老人クラブ活動への支援により、明るい長寿社会の実現と保健福祉の向上を図りました。また、老人クラブや福祉団体等の活動拠点となる集会施設の充実を図りました。				
第7期における具体的な取組				
老人クラブ活動への支援として、老人クラブ事業補助金を交付した。 また、活動拠点となる集会施設「寿の家」（3か所）の維持管理を行った。				
目標（事業内容、指標等）				
■高齢者活動の推進				
支援団体数				
老人クラブ連合会（団体）	平成29年度 1	平成30年度 1	令和元年度 1	令和2年度 1
単位老人クラブ（団体）	14	14	14	14
活動拠点施設利用者数				
西庶路寿の家	平成29年度 502	平成30年度 520	令和元年度 520	令和2年度 530
庶路寿の家	564	580	580	590
茶路寿の家	404	420	420	430
目標の評価方法				
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法				
老人クラブへの補助金は年一回の交付であることから、実績に変動が生じないため実績評価としたい。				

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

実施内容
自己評価結果 【 】
課題と対応策

実施内容
老人クラブ活動への支援として、老人クラブ事業補助金を交付した。 活動拠点となる集会施設「寿の家」（西庶路・庶路・茶路）の維持管理を行った。 西庶路寿の家においては、老朽化により令和元年12月から利用中止している。
自己評価結果 【○】
単位老人クラブは、会員減少による一団体が解散している。 活動拠点施設の利用者数については、西庶路寿の家が施設の老朽化による利用控えを実施したため目標値に達しなかった。他の2施設はほぼ横ばいであることから、老人クラブの活動量においても減少傾向はみられない。
課題と対応策
活動拠点となる集会施設「寿の家」の建物の長寿命化のため、定期的な点検が必要。 管理人からの管理日誌の提出など、連携を図り施設管理に留意する必要がある。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者大学（白洋大学）の開設
現状と課題	
高齢者大学（白洋大学）は60歳以上の町民のかたが69名が入学し、集合学習、部活動に励んでいます。 課題としては、全生徒69名 男性4名 女性65名と女性の割合が非常に高い傾向にあります。また、入学者数は年々減少傾向にあります。	
第7期における具体的な取組	
「生きがいを持ち豊かに生きる高齢者」を目指して、高齢者大学（白洋大学）を開設します。健康や地域・現代社会に関する学習、社会参加活動、他町村の高齢者との交流のほか、自主活動としての部活動など、多様な学習機会を提供し、高齢者の生涯学習の活動を推進します。	
目標（事業内容、指標等）	
健康で豊かな生きがいある人生を求め、うるおいとふれあいに満ちた地域づくりを目指して、自主的に活動する部活動や、年5回以上の学習会（①健康学習に関するもの、②創造学習に関するもの。③社会適応学習に関するもの。④郷土学習に関するもの。⑤社会参加活動に関するもの。⑥見学学習に関するもの。⑦ふれあい交流学習に関するもの。）を実施する。	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果【】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
○第1回集合学習会 60名参加 ○第2回集合学習会 51名参加 ○第3回集合学習会 38名参加 ○第4回集合学習会 35名参加 ※例年行われる第5回集合学習会（閉講式・部活動発表会）については、新型コロナウイルス 感染症の感染拡大防止の為中止。
自己評価結果【○】
運営委員を通じて、学生のニーズを把握し、時代に即した高齢者に向けての学習機会を提供す ることができたことから「○」の評価とした。
課題と対応策
●学習会の内容がマンネリ化。 〔対応策〕 学生のニーズを把握するだけではなく、他町村等での取り組みを調査し、活動につ いての情報収集を広く行う。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者ふれあい交流事業の実施			
現状と課題				
高齢者の生きがいづくりやふれあい、相互交流のより一層の推進を図るため、笑顔で楽しい時間を提供する「生き活きしらぬかふれあい交流事業」とし、演芸会などを実施している。高齢者に楽しんでもらえる演目の選定が求められる。				
第7期における具体的な取組				
平成30年度に第1回目の事業を実施。より多くの参加者を期待し、和天別沢、茶路沢、また庶路・西庶路地区を経由した庶路沢に町民バスを配置し、会場までの利便を図った。				
目標（事業内容、指標等）				
■高齢者ふれあい交流事業の実施				
参加者数（人）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	一	200	210	210
目標の評価方法				
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法				
事業は年1回。事業ごとに参加者数を計上している。				

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	【　】
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<p>第2回目となる令和元年度は、演目の内容を高齢者になじみ深い、白糠町出身歌手3名による楽曲の演奏を実施した。</p> <p>いずれも高齢者の関心が高く、多くの参加者に楽しい時間を過ごしていただけた。</p>
自己評価結果	【◎】
課題と対応策	<p>令和元年度は第2回目の開催であったが、250名あまりの参加があり目標値を達成した。</p> <p>町内全域から集会いただくため、町民バスを配置し、会場までの移動の利便を図った。</p>
高齢者に心から楽しんでもらえる演目の選定が必要。	

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者健康入浴事業の実施													
現状と課題														
<p>平成30年度より実施。 高齢者に対して、温浴施設を健康づくりやふれあい、相互交流の場として提供し、高齢者の健康増進と社会活動の促進を図った。</p>														
第7期における具体的な取組														
<p>生き活きしらぬか健康入浴事業実施要綱を定め、基準日において満70歳以上の住民を対象に事業開始の案内を個別通知のほか広報しらぬかにおいてもアナウンスしている。 第2・4金曜日の午前10時から午後4時までの間の利用を無料入浴日とし、利用者においては登録事務をへて、メンバー証をもって施設利用をしている。</p>														
目標（事業内容、指標等）														
<p>■高齢者健康入浴事業</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>利用登録数（人）</td><td>一</td><td>1,920</td><td>2,100</td><td>2,100</td></tr></tbody></table>						平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	利用登録数（人）	一	1,920	2,100	2,100
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度										
利用登録数（人）	一	1,920	2,100	2,100										
目標の評価方法														
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<p>毎年基準日において事業の対象者を確定するため、年度末の利用実績（延べ人数）をもって評価したい。</p>														

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	【○】
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<p>生き活きしらぬか健康入浴事業実施要綱に基づき実施した。利用者は施設利用の登録をうけ、事業実施日に入浴している。</p> <p>適切に利用いただけるよう、施設利用に関しての注意喚起ポスターを掲示した。</p>
自己評価結果	【○】
課題と対応策	<p>登録者数は236名（令和元年度81名、平成30年度155名）。令和元年度の利用者数は延べ1,008件であり、コロナ禍にあっても事業を実施したが、前年度実績を僅かに下回った。</p> <p>利用者においては適切に施設を利用していただけるよう、委託事業者と連携を図り、何らかの支援を要するような高齢者には、地域包括支援センターに照会するなどの対応をした。</p>
公共の施設を利用しての事業であり、利用状況についての情報の共有について委託事業者と連携を図ることが不可欠であり、利用者への適切な対応に努めたい。	

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	健康づくりの推進（健康づくり活動への支援）
------	-----------------------

現状と課題

近年、単身高齢者や高齢者のみの世帯が増えており、今後、ますます介護予防や転倒予防といった健康づくりの取り組みが重要な課題となっています。

高齢者の健康づくりとしては、筋力を鍛える激しい運動ではなく、マス目を利用し網をよく見て、複数の課題をこなしながら歩く、ふまねっと運動を主とした「ふまねっと教室」や幅広い年齢層が無理なく取り組める「ウォーキング」を推進し、歩行機能や認知機能などの向上を目指します。

第7期における具体的な取組

「ふまねっと教室」や「ウォーキング講習会」を実施し、より多くの高齢者に参加者を求めてます。

目標（事業内容、指標等）

■ ふまねっと教室への参加者（登録者）数

	平成28年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
参加者数(人)	56	60	70	80

■ ウォーキング講習会への参加者数

	平成28年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
参加者数(人)	58	70	80	90

目標の評価方法

● 時点

- 中間見直しあり
 実績評価のみ

● 評価の方法

- ・「ふまねっと教室」は、9月末及び3月末現在の登録者数を計上
- ・「ウォーキング講習会」は参加者数を計上

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・ふまねっと教室の実施 2か所実施・ウォーキング教室の実施 1回実施
自己評価結果 【○】
<ul style="list-style-type: none">・ふまねっと教室の実施（令和元年9月末）40回実施 登録者数59人（延615人参加）・健康ウォーキング講習会の実施（令和元年6月開催）1回実施 36人参加

課題と対応策

- ・ふまねっと教室
　サポーター指導のもと実施。登録者数は減った。今後、登録者を増やすため、町広報等でPRする。
- ・ウォーキング講習会
　理学療法士の指導により、「歩き方のポイント」を学びながら、2つのコースに分かれていった。参加者は目標人数に達しなかったため、次回は白糠地区、西麻路地区2か所で開催し、コースを楽しみながら実施する。また、町広報等でPRし参加者を増やす。

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・ふまねっと教室の実施 2か所実施・ウォーキング教室の実施 1回実施
自己評価結果 【○】
<ul style="list-style-type: none">・ふまねっと教室の実施（令和2年2月14日まで）21回実施 登録者数57人（延615人参加）・健康ウォーキング講習会の実施（令和元年6月開催）1回実施 36人参加 　参加者全員の「歩き方のチェック」を行い、野外でのウォーキングを体験した。 　参加者から、もっと長い距離を歩きたい、歩く良いきっかけとなったと高評を得ました。

課題と対応策

- ・ふまねっと教室
　サポーター指導のもと実施。健康づくりに役立てるため、広く町民に情報提供を図る。
- ・ウォーキング講習会の実施
　講習会や教室の開催により、ウォーキングの習慣を身につける機会づくりを提供する。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	健康づくりの推進（健康を保持するための取組）
------	------------------------

現状と課題

健康を保持するためには、必要に応じて運動や食事等の生活習慣を見直していくことが大切です。平成30年度に実施した、健康増進計画「すこやか白糠21」の中間評価では65歳以上のBMI18.5未満は12.9%となっています。

適切な運動やバランスの取れた食事は、低栄養の予防や免疫機能を高め、筋肉が衰えにくく身体をつくります。また、糖尿病や動脈硬化などの生活習慣病や認知症の予防にもつながります。

第7期における具体的な取組

保健師や管理栄養士等による「生活習慣改善教室」や「高齢者栄養教室」を開催し、適切な運動やバランスの取れた適量の食事、減塩、食生活の改善を推進していきます。

目標（事業内容、指標等）

■生活習慣改善教室参加者の生活習慣改善率

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
改善率 (%)	—	50.0	55.0	60.0

■高齢者栄養教室参加者の満足度

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
改善率 (%)	—	50.0	60.0	70.0

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・「生活習慣改善教室」及び「高齢者栄養教室」開催後に参加者へアンケート調査等を実施し評価

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・生活習慣改善教室「健康ステップアップ講座」 1コース6回 うち5回終了・高齢者栄養教室 1回開催
自己評価結果 【◎】
<p>【生活習慣改善教室】</p> <ul style="list-style-type: none">・教室が途中であるため、評価は今後実施する <p>【高齢者栄養教室】</p> <ul style="list-style-type: none">・参加者の満足度は90%である
課題と対応策
<p>【生活習慣改善教室】</p> <p>参加者は70歳以上の方が半数以上占めており、生活習慣病改善を考えるともう少し若い世代の方の参加も必要である。また、実技を含めて、情報提供したことを習慣化できる内容にすることが必要。</p> <p>【高齢者栄養教室】</p> <p>参加者はリピーターが多いが、低栄養予防等には必要な場になっている</p>

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・生活習慣改善教室「健康ステップアップ講座」 1コース6回開催・高齢者栄養教室 2回開催
自己評価結果 【◎】
<p>【生活習慣改善教室】</p> <ul style="list-style-type: none">・血圧が改善した方が50.0%であった。目標としている55.0%には達していないが、教室参加する前から適正な値であった人もいるので、目標をほぼ達成している・食事、運動と実際の生活で取り入れられるような内容でプログラムを組むことが出来た。 <p>【高齢者栄養教室】</p> <ul style="list-style-type: none">・参加者の満足度（2回平均）は94%である
課題と対応策
<p>【生活習慣改善教室】</p> <p>参加者は70歳以上の方が半数以上占めており、生活習慣病改善を考えるともう少し若い世代の方の参加も必要である。また、実技を含めて、情報提供したことを習慣化できる内容にすることが必要。</p> <p>【高齢者栄養教室】</p> <p>参加者はリピーターが多いが、低栄養予防等には必要な場になっている</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	健康づくり（生活習慣病改善への取組）													
現状と課題														
<p>特定健康診査をきっかけに早期に適切な治療や生活習慣の改善等を行うことで、病気の発症や重症化を防ぐことができます。平成30年度より未受診者に対し、受診勧奨を民間に委託したことにより、受診率は伸びましたが、通院中の健診受診が低い状態にあります。また、特定保健指導の受診率は横ばいで推移しています。</p>														
第7期における具体的な取組														
<p>医療機関等と連携し、受診勧奨や受診体制、受診機会の充実を図り、「特定健康診査の受診率」及び「特定保健指導の実施率」を上げます。</p>														
目標（事業内容、指標等）														
■特定健康診査の受診率														
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成28日年度</th><th>平成30年度</th><th>平成31年度</th><th>平成32年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>受診率(%)</td><td>21.0</td><td>30.0</td><td>36.0</td><td>42.0</td></tr></tbody></table>						平成28日年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	受診率(%)	21.0	30.0	36.0	42.0
	平成28日年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度										
受診率(%)	21.0	30.0	36.0	42.0										
■特定保健指導の受診率														
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成28日年度</th><th>平成30年度</th><th>平成31年度</th><th>平成32年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>受診率(%)</td><td>40.8</td><td>45.0</td><td>48.0</td><td>51.0</td></tr></tbody></table>						平成28日年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	受診率(%)	40.8	45.0	48.0	51.0
	平成28日年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度										
受診率(%)	40.8	45.0	48.0	51.0										
目標の評価方法														
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・ 年度途中で対象者を確定することができないため、中間見直しへできない。														

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果 【○】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
特定健康診査は、集団健診、年8回。個別健診3か所で実施。脳ドックと併せて行う健診1か所で実施。特定保健指導は、保健指導プログラムに則り、対象者を抽出して、積極的支援、動機づけ支援を実施。
自己評価結果 【○】
未受診者対策として、前年度より勧奨業務を業者に委託したことや、前年度から継続して脳ドックと併せて行う健診を実施したことにより、受診率29%を確保することができた。
課題と対応策
更なる受診率の向上を図るため、町民が受診しやすい環境を整備する必要がある。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	健康づくり（がんの早期発見・早期治療）																														
現状と課題																															
<p>高齢者人口の増加に伴い、がん死亡者数及び罹患者が増加することが予測されます。 がんの早期発見、早期治療のためにはがん検診を定期的に受けることが重要ですが、各種がん検診の受診率は低い傾向にあります。</p>																															
第7期における具体的な取組																															
<p>がん検診の受診勧奨を積極的に行い、「各種がん検診の受診率」を上げます。</p>																															
目標（事業内容、指標等）																															
<p>■ 各種がん検診の受診率</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成28年度</th><th>平成30年度</th><th>平成31年度</th><th>平成32年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>胃がん(%)</td><td>5.9</td><td>7.0</td><td>8.0</td><td>9.0</td></tr><tr><td>大腸がん(%)</td><td>8.8</td><td>10.0</td><td>11.0</td><td>12.0</td></tr><tr><td>肺がん(%)</td><td>8.1</td><td>9.0</td><td>10.0</td><td>11.0</td></tr><tr><td>子宮がん(%)</td><td>7.0</td><td>8.0</td><td>9.0</td><td>10.0</td></tr><tr><td>乳がん(%)</td><td>9.4</td><td>11.0</td><td>12.0</td><td>13.0</td></tr></tbody></table>			平成28年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	胃がん(%)	5.9	7.0	8.0	9.0	大腸がん(%)	8.8	10.0	11.0	12.0	肺がん(%)	8.1	9.0	10.0	11.0	子宮がん(%)	7.0	8.0	9.0	10.0	乳がん(%)	9.4	11.0	12.0	13.0
	平成28年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度																											
胃がん(%)	5.9	7.0	8.0	9.0																											
大腸がん(%)	8.8	10.0	11.0	12.0																											
肺がん(%)	8.1	9.0	10.0	11.0																											
子宮がん(%)	7.0	8.0	9.0	10.0																											
乳がん(%)	9.4	11.0	12.0	13.0																											
目標の評価方法																															
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・ 健診実施機関からの報告期間にばらつきがあり、事務や集計作業が煩雑になることから、中間見直しは実質困難です。・ 各種がん検診の受診率を計上																															

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果【】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
集団健診8回、個別健診1カ所で実施
自己評価結果【○】
胃がん5.1%、肺がん8.0%、大腸7.6%、乳がん6.4%、子宮がん4.5%で目標数値には達しなかった。
課題と対応策
がん検診の受診率は、年々減少傾向にある。継続受診者の維持や、新規受診者の増を図るため、引き続き情報を提供していくことが必要。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	生活支援体制の整備
現状と課題	
<p>今後は従来の事業所によるサービスだけでは対応することが難しくなることが予想される。生活支援サービスを多様な主体によ提供する体制の整備が求められ、地域で既に実施されているサービスの把握や必要とされるサービスの調査を実施し、協議体により情報の共有と連携の強化が求められる。</p>	
第7期における具体的な取組	
<p>高齢者の継続した在宅生活を支えるため町に「生活支援コーディネーター」を配置し、地域のニーズを把握するとともに、地域包括ケア会議に多職種による協議体を設置する。地域に不足する生活支援サービスなどの情報を共有し、必要とされる生活支援サービスを提供するための仕組みづくりや、担い手となる人材等を発掘・育成する。</p>	
目標（事業内容、指標等）	
<ul style="list-style-type: none">・地域包括ケア会議 生活支援体制整備部会の開催・要介護認定を受けていない高齢者を対象に行った「日常の機能に係る調査票」に関心のある介護予防活動や困りごとの質問項目を追加し、アンケート調査を実施した。 65～74歳高齢者（586名 32町内会） 75歳以上高齢者（1,180名）合計1,766名	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">年度途中でアンケート調査対象者数を確定する事が出来ないため実施評価	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果【】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<p>高齢者の継続した在宅生活を支えるため町に「生活支援コーディネーター」を配置し、地域のニーズを把握するとともに、地域包括ケア会議として多職種による協議体の開催を行った。地域に不足する生活支援サービスなどの情報や、必要とされる生活支援サービスを提供するための仕組みづくりについて情報の共有を行った。</p>
自己評価結果【○】	<p>協議体を開催し、協議体の役割と町内高齢者に実施したアンケート調査内容について集計した内容について情報を共有した。集計結果について「趣味活動に参加したい」「健康づくりや介護予防教室参加希望」「ボランティア活動への参加をしたい」という回答が多く平成30年度同様に庶路・西庶路地区の関心度が高かった。</p>
課題と対応策	<p>アンケート調査の結果、庶路地区での介護予防に関する興味関心が割合として高かったことから、令和元年度は白糠地区に加え、西庶路、庶路地区での介護予防教室を開催した。今後においてもアンケート調査を実施し、ニーズの分析を行うとともに、地域に既存する資源調査を行い、町内会への協力を継続して要請していきたい。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	生活支援・介護予防の推進 (生活支援・介護予防サービス事業（新しい総合事業）の充実)																				
現状と課題																					
<p>高齢化率や要介護認定者数は今後も増加傾向で推移していくことが見込まれている。 要支援認定者や要支援相当の方が、介護が必要とならないように自立して元気に暮らしていけるよう、予防介護の観点から地域社会でサービスを提供していく必要がある。</p>																					
第7期における具体的な取組																					
<p>要支援認定者及び要支援相当の方（総合事業対象者）が地域で自立した生活が送れるよう「訪問型サービス」や「通所型サービス」等のサービスを実施する。</p>																					
目標（事業内容、指標等）																					
■訪問型介護サービス事業利用者数																					
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>平成31年度</th><th>平成32年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>訪問介護（人）</td><td>-</td><td>16</td><td>18</td><td>20</td></tr><tr><td>軽度生活援助事業（人）</td><td>9</td><td>12</td><td>15</td><td>18</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	訪問介護（人）	-	16	18	20	軽度生活援助事業（人）	9	12	15	18					
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度																	
訪問介護（人）	-	16	18	20																	
軽度生活援助事業（人）	9	12	15	18																	
■通所型介護サービス事業利用者数																					
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>平成31年度</th><th>平成32年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>通所介護（人）</td><td>-</td><td>25</td><td>27</td><td>29</td></tr><tr><td>生きがい活動通所事業（人）</td><td>50</td><td>50</td><td>50</td><td>50</td></tr><tr><td>介護予防教室（人）</td><td>16</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	通所介護（人）	-	25	27	29	生きがい活動通所事業（人）	50	50	50	50	介護予防教室（人）	16	25	25	25
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度																	
通所介護（人）	-	25	27	29																	
生きがい活動通所事業（人）	50	50	50	50																	
介護予防教室（人）	16	25	25	25																	
目標の評価方法																					
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 中間見直しあり<input type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・事業ごとに月末現在での利用者数を照会（9月末及び3月末で集計）																					

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
<p>【訪問型サービス】</p> <ul style="list-style-type: none">・訪問介護 利用者数 19人・軽度生活援助事業 利用者数 14人 <p>【通所型サービス】</p> <ul style="list-style-type: none">・通所介護 利用者数 15人・生きがい活動通所事業 利用者数 41人・介護予防教室 利用者数 12人
自己評価結果 【△】
<ul style="list-style-type: none">・訪問型サービスや通所型サービスを実施することができたが、利用人数は少なかった。・通所型サービスはいずれも利用しやすいように送迎対応の体制を整えている。・利用者からサービス利用には満足されている声が聞かれた。総合事業対象者の選定やサービス利用を希望する方への事業周知は実施している。
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none">・事業の利用人数が少なかったのは、総合事業の対象になっても事業を希望をしない方がおり、また、必要な方に結び付いていないことも考えられる。・必要な人が事業を利用できるよう、介護予防事業の周知と対象者の選定に力を入れ、利関する相談ができるよう、相談や支援を継続して行う。

後期（実績評価）

実施内容
<p>【訪問型サービス】</p> <ul style="list-style-type: none">・訪問介護 利用者数 24人・軽度生活援助事業 利用者数 14人 <p>【通所型サービス】</p> <ul style="list-style-type: none">・通所介護 利用者数 17人・生きがい活動通所事業 利用者数 43人・介護予防教室 利用者数 12人
自己評価結果 【△】
<ul style="list-style-type: none">・訪問型及び通所型サービスを実施したが、中間評価同様人数は少なかった。・生きがい活動通所事業においても新規利用希望が少なかった。・総合事業対象者において事業周知を行ったが、サービス利用には至らなかった。
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none">・総合事業の対象になっても事業を希望しない方や、必要な方でも事業を利用できていないことも考えられる。今後においても対象者が事業を利用できるよう、介護予防事業の周知方法について検討し、これまで同様に広報やホームページの活用は継続し、事業の利用促進につなげていきたい。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	生活支援・介護予防の推進（一般介護予防事業の充実）																																						
現状と課題																																							
<p>要介護認定を受けていない65歳以上の方を対象としたアンケート調査の結果、「運動器機能の低下」に該当している方の割合が10.5%と低いのに対して、「転倒リスクあり」に該当している方の割合は32.2%、「認知機能の低下」に該当している方の割合は40.6%と高くなっています。</p> <p>このような状況を改善していくため、より一層介護予防に取り組む必要があります。</p>																																							
第7期における具体的な取組																																							
<p>認知症の予防や栄養管理、運動・口腔機能の向上を目指す「介護予防教室」を開催します。また、生活・介護支援サポートーやリハビリテーション専門職が、介護予防活動に積極的にかかわる体制を整備します。</p> <p>転倒の予防や認知症の予防、口腔機能の向上など、介護福祉に対する意識を高めるとともに、高齢者が興味や意欲を持てるよう、介護予防の普及啓発に努めます。</p>																																							
目標（事業内容、指標等）																																							
<p>■介護予防普及啓発事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> <th>平成32年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防教室（か所）</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>出前講座（か所）</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>■生活・介護支援センター登録者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> <th>平成32年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録者数（人）</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>■地域リハビリテーション活動回数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> <th>平成32年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数（回）</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>目標の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 時点 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中間見直しあり <input type="checkbox"/> 実績評価のみ ● 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・事業ごとに月末現在での状況を照会（9月末及び3月末で集計） 						平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	介護予防教室（か所）	-	1	2	2	出前講座（か所）	23	23	30	30		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	登録者数（人）	20	26	30	30		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	回数（回）	5	5	5	5
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度																																			
介護予防教室（か所）	-	1	2	2																																			
出前講座（か所）	23	23	30	30																																			
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度																																			
登録者数（人）	20	26	30	30																																			
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度																																			
回数（回）	5	5	5	5																																			

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
【介護予防普及啓発事業】 ・介護予防教室 2か所 ・出前講座 9か所
【生活・介護支援センター】 ・登録者数 25人
【地域リハビリテーション活動】 ・リハビリ専門職による通所型サービス等への助言指導 0回（未実施）
自己評価結果 【○】
・介護予防普及啓発事業は、予防教室3か所を予定し、9月までに2か所で実施することができている。年度後半に1か所実施予定となっている。 ・出前講座についても予定通り計画実施している。 ・生活・介護支援センター養成講座について本年度実施予定となっている。 ・地域リハビリテーション活動は、未実施だが、下半期に実施する計画となっている。
課題と対応策
・介護予防教室について、地域から教室に参加しやすいよう町内3か所で開催する工夫をしている。 ・生活・介護支援センターは、すでに介護予防教室のOB会（自主組織）に参加し、集まりを支えるなど少しづつ活動の場を広げている。本年度中の養成講座の開催を予定。 ・地域リハビリテーションにおいて地域における介護予防の取組を強化できるよう、リハビリテーション専門職により助言を頂き、介護予防事業等に取り入れていきたい。

後期（実績評価）

実施内容
<p>【介護予防普及啓発事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・介護予防教室 3か所・出前講座 21か所 <p>【生活・介護支援サポーター】</p> <ul style="list-style-type: none">・登録者数 31人 <p>【地域リハビリテーション活動】</p> <ul style="list-style-type: none">・リハビリ専門職による通所型サービス等への助言指導 5回
<p>自己評価結果 【◎】</p>
<ul style="list-style-type: none">・介護予防普及啓発事業は介護予防教室の開催会場を増やし（3か所）、老人クラブ（12団体）、西庶路・庶路リハビリの会（6回）、民児協において実施した。・出前講座についても年度途中からの追加依頼もあったが実施できた。・生活・介護支援サポーター登録者数31にん・地域リハビリテーション活動において町内にある通所介護施設（1か所）、自主組織（1か所）にリハビリ専門職から運動の紹介と指導、スタッフ等への助言を実施した。
<p>課題と対応策</p>
<ul style="list-style-type: none">・介護予防教室は、地域から参加しやすいよう開催会場を増やし、広報による周知や口コミにより多数の参加希望があり大変好評な結果となった。今度の教室開催についても、事故なく安全に参加してもらえるよう取り進めていきたい。・生活・介護支援サポーターは、隔年で養成講座を実施し、本年度開催において新規登録者を増やすことが出来たが、活動できる人数はまだ少ないため、今後も登録者を増やしていく、介護予防教室のOB会（自主組織）などサポーター活動のできる場を広げていけるよう支援を継続していきたい。・地域リハビリテーションにおいて地域における介護予防の取組を強化できるよう、地域の介護施設、自主的に活動する場にリハビリテーション専門職の派遣を行い、助言を頂いた内容については今後の活動に取り入れ、介護予防に努めていきたい。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	ごみ袋の支給事業の実施																												
現状と課題																													
<p>在宅介護を行っている方でおむつのごみ処理が大変との意見が多く、介護者の負担軽減を図ることを目的とし、実施しています。今後も利用者の需要を把握しながら継続していきます。</p>																													
第7期における具体的な取組																													
<p>介護認定において、要介護3以上の要介護認定を受けている方や排泄管理支援用具の給付を受けている障がい者を対象に、使用している畜便袋や畜尿袋、紙おむつ、尿取りパッドなど「排泄管理用品」の処理用ごみ袋を支給します。</p>																													
目標（事業内容、指標等）																													
<p>■ ごみ袋支給件数及び枚数</p> <table border="1"><thead><tr><th colspan="2"></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">要介護者</td><td>(件)</td><td>53件</td><td>54件</td><td>61件</td><td>63件</td></tr><tr><td>(枚)</td><td>4,456枚</td><td>4,536枚</td><td>5,292枚</td><td>5,292枚</td></tr><tr><td rowspan="2">障がい者</td><td>(件)</td><td>28件</td><td>29件</td><td>30件</td><td>30件</td></tr><tr><td>(枚)</td><td>2,402枚</td><td>2,506枚</td><td>2,610枚</td><td>2,610枚</td></tr></tbody></table>				平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	要介護者	(件)	53件	54件	61件	63件	(枚)	4,456枚	4,536枚	5,292枚	5,292枚	障がい者	(件)	28件	29件	30件	30件	(枚)	2,402枚	2,506枚	2,610枚	2,610枚
		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																								
要介護者	(件)	53件	54件	61件	63件																								
	(枚)	4,456枚	4,536枚	5,292枚	5,292枚																								
障がい者	(件)	28件	29件	30件	30件																								
	(枚)	2,402枚	2,506枚	2,610枚	2,610枚																								
目標の評価方法																													
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・ 「ごみ袋支給枚数」及び「枚数」を計上																													

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	【】
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	4月に対象者全員へ案内通知の発送をし、申請者に対しごみ袋の支給を行いました。また、年度途中での対象者にも認定結果の結果と一緒に案内通知の発送を行いました。
自己評価結果	【○】
課題と対応策	要介護者は40件、3,053枚の支給実績となっており、支給率は件数は72%、枚数は58% 障がい者は22件、1,460枚の支給実績となっており、支給率は件数は73%、枚数は56% 案内通知の発送者には、入院中の方も含まれているため、申請率は低くなっている。入院中なのか、おむつを使用していなく申請がないのか、申請を忘れているのか把握し、勧奨通知を検討するなどしていきます。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	地域包括ケア会議の推進
<h3>現状と課題</h3> <p>高齢者人口は、段階の世代がすべて75歳以上となる2025年に3,158人となり、総人口の39.5%を占める推計である。 高齢者が増えても、住み慣れた地域で安心して生活ができるように、「地域包括ケア会議」を実施し、専門職の連携強化を図る。</p>	
<h3>第7期における具体的な取組</h3> <p>医師や歯科医師、薬剤師等の医療職、ケアマネジャー、介護サービス事業所等の介護職が参加する「地域ケア会議」を実施する。</p>	
<h3>目標（事業内容、指標等）</h3> <p>地域包括ケア推進会議、専門部会（要援護高齢者の見守り部会、医療介護連携部会、生活支援体制整備部会、個別ケア会議）を開催する。</p>	
<h3>目標の評価方法</h3> <ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 中間見直しあり<input type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・地域包括ケア会議の実施状況を照会（9月末及び3月末）	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
前期（中間見直し）	
実施内容	
<p>■地域包括ケア推進会議の開催 0回（未実施）</p> <p>■専門部会の開催</p> <ul style="list-style-type: none">・要援護高齢者の見守り部会 0回（未実施）・医療介護連携部会 1回・生活支援体制整備部会 0回（未実施）・個別ケア会議 3回	
自己評価結果【△】	
<ul style="list-style-type: none">・地域ケア推進会議は後期（年度末3月）に開催予定。・専門部会について、医療介護連携学習会を実施し、後期にも認知症に関わる研修会を開催予定。個別ケア会議は3回実施。要援護高齢者見守り部会、生活支援体制整備部会は後期に開催予定としている。	
課題と対応策	
医療介護連携部会について、つながり手帳運用と白糠町の終末期医療に係る学習会をケアマネジャー連絡会議と合わせて実施。個別ケア会議（3回）を実施し、うち1件は住宅環境の改善を検討するケア会議として、リハビリ専門職より意見をいただいた。後期についても各部会を開催して現状と課題を明確にし、必要な対策を検討していきたい。各部会の報告を行う推進会議は3月に開催予定。	

後期（実績評価）

実施内容
■地域包括ケア推進会議の開催 0回
■専門部会の開催
・要援護高齢者の見守り部会 1回
・医療介護連携部会 2回
・生活支援体制整備部会 1回
・個別ケア会議 9回
自己評価結果 【○】
■地域包括ケア会議 各部会が終了後3月開催としていたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のため開催が出来なかった。状況が落ち着いたのち、地域包括ケアシステムの充実をするため地域課題を関係者で共有しネットワーク構築と地域包括ケア社会基盤整備を目的とした地域ケア推進会議の開催を行う。
■専門部会 ・要援護高齢者の見守り部会 ネットワークを構成する26の外部団体において釧路地域SOSネットワーク運用の流れと事業の周知及び実績報告を行った。 ・医療介護連携部会 医療及び介護関係者を対象とした多職種研修会を開催。事例において認知症に係る具体的支援の研修会を実施した。 ・生活支援体制整備部会 協議体、生活支援コーディネーターの役割についての再度周知。要介護認定を受けていない65歳～74歳（35町内会）、および75歳以上の高齢者に行ったアンケート調査において結果の報告を行った。 ・個別ケア会議 地域における支援困難ケース、利用者の自立支援・重度化防止のため多職種によるケアプラン検証を目的とした個別ケア会議、リハビリ専門職の参画による介護予防への助言等の支援方針の方向性を検討する個別会議を実施した。
課題と対応策
各専門部会において町の課題となる部分を明確にし、地域包括支援システム構築のため必要な対策を検討する。 ・要援護高齢者の見守り部会～高齢者が安心安全に外出できるよう、所在不明となった場合の早期発見を図るためのシステムの充実と事業の推進。 ・医療介護連携部会～情報共有ツールつながり手帳の普及と医療と介護従事者研修会の実施。 ・生活支援体制整備部会～地域のニーズ等の把握。町内会や地域の通いの場の情報収集。 ・個別ケア会議～利用者の自立支援と重度化防止のため関係者で情報共有と課題解決。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	適切なケアマネジメントの推進										
現状と課題											
<p>高齢化率や要介護認定者数は今後も増加傾向で推移していくことが見込まれている。要支援認定者や要支援相当の方が、介護が必要とならないように自立して元気に暮らしていくよう、心身の状況やその置かれている環境、その他の状況に応じて、適切なサービスを包括的かつ効率的に提供し、介護予防に向けた必要なケアマネジメントを行う。</p>											
第7期における具体的な取組											
<p>介護予防ケアマネジメントを実施する。</p>											
目標（事業内容、指標等）											
<p>■介護予防ケアマネジメント件数</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>平成31年度</th><th>平成32年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>件数（件）</td><td>126</td><td>130</td><td>135</td><td>140</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	件数（件）	126	130	135	140
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度							
件数（件）	126	130	135	140							
目標の評価方法											
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 中間見直しあり<input type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・介護予防ケアマネジメントの件数を9月末及び3月末で確認											

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
前期（中間見直し）	
実施内容	
<p>要支援認定者や要支援相当の方の状況や置かれている環境に応じて、個々に目標を設定し、その目標達成に向けて適切なサービスを提供することで、介護予防に向けたケアマネジメントを実施する。</p>	
自己評価結果【○】	
<p>白糠町介護予防・日常生活支援総合事業利用希望者における介護予防ケアマネジメントを実施し、適切なサービスを提供することができた。介護予防に対する関心も高くなつており、個々に目標を設定することで介護予防の意識を向上することができた。</p> <ul style="list-style-type: none">・介護予防ケアマネジメント件数 144件 (内訳) 訪問型サービス 19件 訪問型サービスA 14件 訪問型サービスC 2件 通所型サービス 15件 通所型サービスA 41件 通所型サービスC 12件 その他生活支援サービス 配食サービス 12件 声かけ訪問 29件	
課題と対応策	
<p>訪問型、通所型サービスについて新規利用者は増加傾向にある。引き続き、専門職（リハビリ、歯科衛生士）による評価と日常生活上のアドバイスを受けながら、介護予防に向けたアマネジメントを実施する。</p>	

後期（実績評価）

実施内容
要支援認定者や要支援相当の方の状況や置かれている環境に応じて、個々に目標を設定し、その目標達成に向けて適切なサービスを提供することで、介護予防に向けたケアマネジメントを実施した。
自己評価結果【○】
白糠町介護予防・日常生活支援総合事業利用希望者における介護予防ケアマネジメントを実施し、適切なサービスを提供することができた。介護予防に対する関心も高くなつており、個々に目標を設定することで介護予防の意識を向上することができた。 ・介護予防ケアマネジメント件数 156件 (内訳) 訪問型サービス 24件 訪問型サービスA 14件 訪問型サービスC 2件 通所型サービス 17件 通所型サービスA 43件 通所型サービスC 12件 その他生活支援サービス 配食サービス 14件 声かけ訪問 30件
課題と対応策
介護予防に対する関心度が高くなっている。今後も高齢者人口が増加するためサービス利用希望者数も増加すると考えられることから、住み慣れた地域で自分らしい生活が出来るよう介護重度化防止に努め、利用者のニーズに応じたサービス提供が出来るようマネジメントを実施する。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	地域活動、ボランティア活動への支援													
現状と課題														
地域での介護予防活動や高齢者の活動の場を広げるため、町内会での自主的な集まり等に関する情報収集と活動を支える担い手として生活・介護支援サポーターの養成及び活動への支援が必要である。														
第7期における具体的な取組														
老人クラブ活動や生涯学習講座等を通し、高齢者の社会参加を促進するとともに、ボランティアや見守り活動など、元気な高齢者が地域社会を支える担い手として活動できるよう支援する。また積極的に活動したい方と協力を求めている方との橋渡しを行い、地域の輪を広げ、住民のボランティア活動の振興を図る。														
目標（事業内容、指標等）														
■見込量～生活・介護支援サポーター登録者数														
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成28年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>利用件数（件）</td><td>20</td><td>26</td><td>30</td><td>30</td></tr></tbody></table>						平成28年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	利用件数（件）	20	26	30	30
	平成28年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度										
利用件数（件）	20	26	30	30										
白糠、西庶路、庶路地区で開催する介護予防教室OB会等にてボランティア活動実施														
目標の評価方法														
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">年度内での登録者評価のため実施評価														

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果 【】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
生活・介護支援サポーター養成講座を開催し、地域社会を支える担い手を育成した。また、老人クラブ活動や生涯学習講座等を通じ、高齢者の社会参加を促進するとともに、ボランティアや見守り活動などの支援を行った。 積極的に活動したい方と協力を求めている方との橋渡しを行い、地域の輪を広げ、住民のボランティア活動の進行を図ることができた。
自己評価結果 【◎】
■生活・介護支援サポーター養成講座の開催 全6回、受講者数 実26名、延96名 ■生活・介護支援サポーターの登録者数 目標26人に対し実績25名（96.2%） 機能訓練教室及び介護予防教室OB会において活動支援を行った。
課題と対応策
生活介護支援サポーターの活動の場を広げ、より多くの高齢者が集える機会を増やすよう、情報収集を行う。また、地域の担い手を増やすため、生活介護支援サポーターの養成講座を定期的に開催する。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	地域ネットワークづくり
現状と課題	
高齢者が住み慣れた地域で尊厳をもって暮らし続けるため、地域包括ケア会議において、他職種や地域の関係者と連携し、個別課題の解決を支援し、見守り等のネットワーク構築を図っている。	
第7期における具体的な取組	
高齢者が疾病や介護が必要な状態となつても、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい生活が出来るよう、医療、介護の確保と介護予防、自立した日常生活の支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムを構築するため、地域での見守りや多様な生活支援サービス等の提供が必要なことから、地域ネットワークの強化を図る。	
目標（事業内容、指標等）	
地域包括ケア会議 <ul style="list-style-type: none">・ 地域包括ケア推進会議（年1回）・ 各専門部会の開催<ul style="list-style-type: none">要援護者見守り部会（1回）生活支援体制整備部会（1回）介護医療連携部会（1回）・ 個別ケア会議（随時開催）・ 介護支援専門員連絡会議（年3回）	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">年度内での開催評価のため実施評価	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果 【】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
地域包括ケアシステムの充実を目的に、地域における課題を関係者で共有するとともに、解決に向けた地域包括ケア推進会議、専門部会を開催し、ネットワーク構築と関係者間で情報共有を行った。また、地域ケア個別会議では、介護予防に重点を置くため、リハビリテーション専門職の活用を図った。その他、介護支援専門員連絡会議では制度改正の周知外部講師による認知症学習会を実施し、多職種連携に努めることができた。
自己評価結果 【◎】
<ul style="list-style-type: none">・地域包括ケア推進会（実施なし）※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため・各専門部会の開催<ul style="list-style-type: none">要援護者見守り部会（1回）生活支援体制整備部会（1回）介護医療連携部会（1回）・個別ケア会議（随時開催）：9回開催、11ケースの検討を実施・介護支援専門員連絡会議（年4回）
課題と対応策
地域包括ケアシステムの実現に向け、今後においても地域課題の解決のために、各関係機関と情報共有を行い、多職種連携に努めていきたい。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者等への配食サービスの実施															
現状と課題																
疾病等の理由により食事の調理が困難な高齢者に対し、定期的(月曜日から日曜日)に、栄養バランスのとれた食事を提供（昼食か夕食のいずれか1日1食）するとともに安否確認を行う。																
第7期における具体的な取組																
ひとり暮らしの高齢者や夫婦世帯で見守りを要する方を対象に、町の委託業者が配食と安否確認を実施します。																
目標（事業内容、指標等）																
<p>■見込量～高齢者（65歳以上）に対する配食サービス利用件数</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成28年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>利用件数（件）</td><td>42</td><td>47</td><td>51</td><td>57</td></tr><tr><td>延回数（回）</td><td>6,289</td><td>7,038</td><td>7,800</td><td>8,550</td></tr></tbody></table>			平成28年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	利用件数（件）	42	47	51	57	延回数（回）	6,289	7,038	7,800	8,550
	平成28年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度												
利用件数（件）	42	47	51	57												
延回数（回）	6,289	7,038	7,800	8,550												
目標の評価方法																
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">年度途中で対象者数を確定する事が出来ないため実施評価配食サービス利用件数を計上																

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果 【 】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<p>65歳以上の単身高齢者および高齢者世帯において、食事の調理が困難な方、栄養改善が必要な高齢者に対し食事を提供し、かつ安否確認を行った。</p>
自己評価結果 【◎】	<p>入院や施設入所により利用者数が目標値に届かなかったが、退院後の栄養改善や調理動作が困難な高齢者に対し、安否確認を含め食事を提供をすることが出来た。</p> <ul style="list-style-type: none">■利用者数：目標51件に対し、実績36件（70.59%）■延食数：目標7,800食に対し、実績5,838食（74.85%）
課題と対応策	<p>平成30年度より利用者数は減っているが、利用する食数が増加している。疾病や利用者の状況により希望する食数は異なるが、今後も調理動作が困難な高齢者は増加すると見込まれる。施設入所や長期的に入院が必要となることもあるが、高齢者が住み慣れた家庭で生活が継続できるよう、今後も安否確認を含めた食事の提供を執り勧める。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者等への声かけ訪問サービスの実施																		
現状と課題																			
白糠町における65歳以上の高齢者は総人口の約4割を占めている。在宅高齢者が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らすことが出来るよう、専門の声かけ訪問員が訪問し、高齢者の安否確認を行っている。																			
第7期における具体的な取組																			
ひとり暮らしの高齢者等で見守りや声かけを要する方を対象に、専門の声かけ訪問員が訪問し、安否確認を実施する。																			
目標（事業内容、指標等）																			
■見込量～概ね70歳以上の高齢者等に対する声かけ訪問サービス利用件数																			
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成28年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>利用件数（件）</td><td>66</td><td>80</td><td>85</td><td>90</td></tr><tr><td>延回数（回）</td><td>5,178</td><td>6,800</td><td>7,225</td><td>7,650</td></tr></tbody></table>						平成28年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	利用件数（件）	66	80	85	90	延回数（回）	5,178	6,800	7,225	7,650
	平成28年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度															
利用件数（件）	66	80	85	90															
延回数（回）	5,178	6,800	7,225	7,650															
目標の評価方法																			
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">年度途中で対象者数を確定する事が出来ないため実施評価声かけ訪問サービス利用件数を計上																			

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果 【 】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
65歳以上のひとり暮らしの高齢者等で、見守りや声かけを要する方を対象に、専門の声かけ訪問員が自宅に週1～2回訪問し、高齢者の安否確認を行った。
自己評価結果 【△】
令和元年度利用件数は43件であった。目標値には届いていないが、声かけ訪問以外のサービス利用で（訪問介護や通所介護）安否確認を行うことが出来る高齢者が増えている。 ■利用件数：目標85件に対し、実績43件（50.58%） ■延回数：目標7,225回に対し、実績3,406回（47.1%）
課題と対応策
今後も一人暮らしの高齢者世帯において見守りや声かけを必要とする対象者は増加すると見込まれる。住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来るよう、今後においても事業の促進を図る。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	災害時における高齢者や障がい者の支援(ふれあい連絡票の整備)										
現状と課題											
<p>・災害時に援護が必要とされる65歳以上の単身世帯や夫婦世帯、障がい者の方などを対象とした、台帳および一覧表を作成し、地域や関係機関が連携し支援する制度を整備する。</p>											
第7期における具体的な取組											
<p>・調査対象者は65歳以上の単身および夫婦世帯・身体障がい者手帳3級以上（下肢・体幹については等級を定めない）・療育手帳A判定者・要介護および要支援介護者だが、母子手帳受給者・乳幼児・外国人など災害時に支援に必要とされる方も登録。また、新規対象者は4月に住民係に依頼書をだして、今年度65歳になる人のデーターを抽出してもらい、その中から該当者をピックアップして、誕生月に訪問調査します。それ以外の人はなるべく年に1回の調査をしています。</p>											
目標（事業内容、指標等）											
<p>■ふれあい連絡票登録件数</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>登録件数(件)</td><td>2,116</td><td>2,190</td><td>2,260</td><td>2,330</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	登録件数(件)	2,116	2,190	2,260	2,330
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度							
登録件数(件)	2,116	2,190	2,260	2,330							
目標の評価方法											
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">実際に調査した人数											

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果 【 】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
・新規対象者も再調査の人も不在時は不在票を入れて連絡をもらうようにし、調査をおこなった。
自己評価結果 【◎】
・上記の要領で調査を進め、ほぼ全対象者の内容確認と更新をすることができた。
課題と対応策
・結果的にはほぼ全対象者の調査はできたが、不在票を入れてもなかなか連絡がこず、年度末に一気に電話での調査となつた。その際、不在票を入れた話をしたが不在票を捨てていたり、入っていたのも忘れている人が多かったので、来年度は不在票を入れたら2・3日で電話し調査をすることにしたい。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	交通安全運動の推進
現状と課題	
<p>【現状】：全国的に高齢者が犠牲となる交通死亡事故が多い 【課題】：交通安全に対する安全意識や身体機能・認知機能の低下</p>	
第7期における具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">町内交通安全関係団体と連携し、交通安全各種行事で交通安全啓発を図る。	
目標（事業内容、指標等）	
<ul style="list-style-type: none">①高齢者を対象とした交通安全講習②町民交通安全大会の開催③独居高齢者訪問 高齢者向けチラシと夜光反射材配布(母)	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none"><input type="radio"/> 達成できた<input checked="" type="radio"/> 概ね達成できた<input type="triangle"/> 達成はやや不十分<input type="cross"/> 全く達成できなかつた	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果 【】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
・町内交通安全関係団体と連携し、交通安全各種行事で高齢者に対する交通安全啓発を図る。
自己評価結果 【○】
①高齢者を対象とした交通安全講習 ⇒令和元年度 1件（白洋大学校 53名） ②町民交通安全大会の開催（令和元年12月開催） ⇒交通事故防止についての講演や夜光反射材配布等啓発活動 ⇒参加者 令和元年度152名、 ③独居高齢者訪問 高齢者向けチラシと夜光反射材配布（母） ⇒令和元年度 独居高齢者訪問 395件、 ⇒令和元年度 老人クラブ訪問 13件
上記により、町内では、高齢者による大きな交通死亡事故等が発生していない。 交通安全啓発運動の推進が図られた。
課題と対応策
【課題】：全国的に高齢者が犠牲となる交通死亡事故が絶えない。 【対応策】：引き続き交通安全関係団体と連携し、高齢者をはじめとする交通安全に対する啓発活動を推進する。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	緊急通報システム事業			
現状と課題				
在宅の高齢者等について、急病、火災及び事故等の緊急時の連絡体制を確立することにより、日常生活上の不安の解消及び人命の安全確保を図ることを目的に、緊急通報装置を設置している。また、個々に「緊急医療情報カード」を作成し、緊急時に利用者の情報を得られる体制を組んでいます。 一人暮らしの高齢者や重度身体障がい者などが日常生活を安心して暮らせるよう支援しました。				
第7期における具体的な取組				
相談に来庁される本人やその家族への対応のほか、在宅高齢者にかかわることの多い居宅介護支援事業所などの介護事業所や、障害者相談支援事業所など把握したと連携を図り、ニーズに応える。				
目標（事業内容、指標等）				
■緊急通報システム事業				
利用者数（人）	平成29年度 48	平成30年度 71	令和元年度 71	令和2年度 73
目標の評価方法				
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・年度毎における利用登録者数を計上している。 (利用者が出現した際にカウントする。)				

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果【】
課題と対応策

実施内容
緊急通報装置設置数 42件 うち令和元年度設置 5件
自己評価結果【○】
設置数は目標値に大きく下回っている。 利用には協力員2名の登録が必要。登録時から時間の経過とともに異動が生じているケースもあり、本人の現況確認のほか、協力員の状況についても確認作業が必要。 今後も居宅介護支援事業所や地域包括支援センターと連携しニーズを把握していく。
課題と対応策
時間の経過とともに、本人の健康状態や協力員の状況などの登録情報に異動が生じることが多いため、緊急時に速やかな対応ができるよう、本人の現況のほか「緊急時医療者カード」の記載内容の確認作業を要する。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	権利擁護の推進（成年後見制度の相談支援体制の充実と普及啓発）																																					
現状と課題																																						
<p>高齢化率の上昇と共に単身高齢者世帯や高齢者のみ世帯が増加し、金銭管理や制度利用に係る相談対応件数が増加している。平成29年度に設置した白糠町権利擁護センターにおいて制度利用に係る相談援助やパンフレット等での普及啓発活動を行なっている。</p> <p>また、町において市民後見人養成講座を1回開催するとともに、実施機関との連携として打合せ会議の他、隨時情報交換を実施している。</p>																																						
第7期における具体的な取組																																						
<p>相談支援は権利擁護センターと地域包括支援センターが連携し対応する。</p> <p>普及啓発活動では広報や会議の場等を活用し、広く周知する。</p> <p>市民後見人の養成は年1回開催し、地域の担い手を増やすことを目指す。</p>																																						
目標（事業内容、指標等）																																						
<p>■権利擁護に係る相談支援</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域包括支援センター</td> <td>52件</td> <td>30件</td> <td>30件</td> <td>30件</td> </tr> <tr> <td>権利擁護センター</td> <td>196件</td> <td>220件</td> <td>220件</td> <td>220件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>248件</td> <td>250件</td> <td>250件</td> <td>250件</td> </tr> </tbody> </table> <p>■市民後見人の養成</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民後見人養成講座</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>受講者</td> <td>6名(新規5名)</td> <td>8名(新規5名)</td> <td>8名(新規5名)</td> <td>8名(新規5名)</td> </tr> </tbody> </table>					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	地域包括支援センター	52件	30件	30件	30件	権利擁護センター	196件	220件	220件	220件	合計	248件	250件	250件	250件		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	市民後見人養成講座	1回	1回	1回	1回	受講者	6名(新規5名)	8名(新規5名)	8名(新規5名)	8名(新規5名)
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																																		
地域包括支援センター	52件	30件	30件	30件																																		
権利擁護センター	196件	220件	220件	220件																																		
合計	248件	250件	250件	250件																																		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																																		
市民後見人養成講座	1回	1回	1回	1回																																		
受講者	6名(新規5名)	8名(新規5名)	8名(新規5名)	8名(新規5名)																																		
目標の評価方法																																						
<ul style="list-style-type: none"> ● 時点 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中間見直しあり <input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ ● 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> 年度途中のため、取組内容での評価とする。 																																						

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果 【 】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
白糠町権利擁護センターにおいて制度利用に係る相談援助やパンフレット等での普及啓発活動を実施した。また町において市民後見人養成講座を開催し、受講者は7名（内新規2名）となった。また、実施機関との連携として、年4回打合せ会議を実施した。
自己評価結果 【◎】
■権利擁護に係る相談支援 目標が250件に対し、実績223件で89.2%となった。権利擁護センターでの対応件数は目標220件に対し、163件であったが、前年と比較し34件上回った。 ■市民後見人の養成 新規受講者数は5名の目標に対し、実績2名であった。
課題と対応策
■権利擁護に係る相談支援 介護支援専門員や民生委員等の会議を活用し、権利擁護センターの周知を行う。 ■市民後見人の養成 市民後見人の役割や権利擁護センターでの活動支援体制が整っていることを広く町民に周知し、担い手となる市民後見人養成講座の受講者を増やし、地域で支える体制づくりを目指す。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者虐待の防止
現状と課題	
<p>高齢者の虐待に関する相談に対し、状況の確認や情報共有を行っている。 高齢者に関わることの多い介護職員や福祉関係者が早期に異変に気付ける視点を持ち、 相談できる体制を維持することが課題である。</p>	
第7期における具体的な取組	
<p>介護保険サービス事業所および障害者施設の従事者を対象に、虐待防止法の理解や事例を通じた対応方法に係る学習会を開催し、資質向上を目指す。 また、広報等で地域包括支援センターが高齢者虐待の相談窓口であることを周知し、早期相談につなげる。</p>	
目標（事業内容、指標等）	
<ul style="list-style-type: none">■ 権利擁護に係る学習会の実施（年1回以上）■ 高齢者虐待に関する普及啓発（地域包括支援センターだよりや講話の実施）	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">年度途中のため、取組内容での評価とする。	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果【】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<p>介護保険サービス事業所および障害者施設の従事者を対象に権利擁護に関する学習会を開催した。</p> <p>また、地域包括支援センターだよりに高齢者虐待に関する普及啓発記事を掲載し、早期発見、早期相談について周知した。</p>
自己評価結果【○】	<p>■権利擁護に係る学習会 成年後見制度をテーマに1回開催し、23名が参加した。</p> <p>■高齢者虐待に関する普及啓発 地域包括支援センターだよりに掲載し、普及啓発を行った。また、老人クラブや介護予防教室において、高齢者虐待の早期発見について講話を行った。</p>
課題と対応策	<p>早期発見・早期相談につながるよう、広く普及啓発を行う。また、関係者の資質向上を目指し、学習会を継続的に行う。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	消費者被害防止の実施
現状と課題	
特殊詐欺事件については主に高齢者が被害者になりやすいため、「白糠町消費者被害防止ネットワーク」の構成団体と連携強化を図り、被害防止に努める。	
第7期における具体的な取組	
金融機関及び郵便局の窓口などで、不審な行動の高齢者に積極的に声かけ等を行い、振込詐欺などの被害を最小限に抑える。	
目標（事業内容、指標等）	
町内で振込詐欺被害にあう高齢者0人を目指す。	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・町内の特殊詐欺等の被害者数を把握することは困難であるので、警察と情報を共有し、町内の被害状況を確認する	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果【】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
各金融機関による高齢者への声かけ 郵便局による不審な郵便物の内容確認（レターパックなど）
自己評価結果【◎】
白糠町内では目立った被害報告は発生していない
課題と対応策
個人情報の取得が目的と思われる葉書や封書が送付されてきたとの相談が増加しているので、安易に自分から連絡しないように啓発を行っているが、様々な文面の手紙があるため、すべて周知することは難しい

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	相談支援・情報提供の充実（健康相談、こころの相談の実施）
現状と課題	
<p>毎日のようにメディアから健康に関する情報が流れ、その溢れるような情報に振り回される中高年が多くみられます。そのため、健康に関する不安や知りたい事を来所や電話等で相談できる身近な相談先が必要です。</p> <p>また、心の健康に不安や心配のある方も増えており、精神保健における対策の必要性も求められています。</p>	
第7期における具体的な取組	
<p>保健師や管理栄養士による健康相談を来所や電話等で随時、対応しています。また、婦人部や老人クラブ等の団体や健康づくり事業の際に、健康相談を行っております。</p> <p>こころの相談では、地域生活支援センターhardt釧路から専門相談員が対応し、保健師も一緒に社会資源や支援方法を検討しています。</p>	
目標（事業内容、指標等）	
<ul style="list-style-type: none">・婦人部、老人クラブ、その他の団体による健康相談の実施・来所、電話による健康相談の実施・こころの相談の実施	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・年度途中で評価できるものではないため、実施評価のみ	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果 【 】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<ul style="list-style-type: none">・婦人部、老人クラブ、その他の団体による健康相談 45回実施・来所、電話による健康相談 163回実施・こころの相談 23回実施
自己評価結果 【◎】	<ul style="list-style-type: none">・例年並みに実施できた。
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none">・必要な方が気軽に相談できるよう、各種健康相談の事業について、今後も町民に広く周知していく必要がある。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者の総合相談の実施															
現状と課題																
総相談件数は年間600～700件で推移しています。相談内容は介護、認知症に係るものが半数を占めている。認知症に関する相談対応においては、家族や近隣からの相談が増加し支援期間が長期間にわることや、多数の関係機関との調整を要することが課題である。																
第7期における具体的な取組																
高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らし続けられるよう、本人、家族、地域の方などから幅広く相談を受け、適切な情報提供及び関係機関の紹介を行う。																
目標（事業内容、指標等）																
■相談件数																
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>初回相談（件）</td><td>327</td><td>350</td><td>400</td><td>400</td></tr><tr><td>総相談（件）</td><td>702</td><td>700</td><td>700</td><td>700</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	初回相談（件）	327	350	400	400	総相談（件）	702	700	700	700
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度												
初回相談（件）	327	350	400	400												
総相談（件）	702	700	700	700												
目標の評価方法																
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">年度途中のため、取組内容での評価とする。																

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果【】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<p>高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らし続けられるよう、本人、家族、地域の方などから幅広く相談を受け、情報提供及び関係機関の紹介、制度利用に係る支援を行う。</p>
自己評価結果【◎】	<p>■初回相談 目標350件に対し、実績433件で124%と上回り、地域包括支援センターの周知が進んだと考えられる。 ■総相談数 目標700件に対し、実績780件で111%であった。</p>
課題と対応策	<p>早期相談につながるよう、総合相談窓口としての周知を継続的に行う。 対象者の状況に合った情報提供ができるよう、社会資源の把握を行う。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	町広報誌やホームページ等の活用の推進
現状と課題	
<p>介護サービスの利用者やその家族が、介護保険制度やサービスの仕組みと利用方法などを情報収集できるよう、町広報誌やホームページ等を活用し周知を図ります。</p>	
第7期における具体的な取組	
<p>町広報誌やホームページにより、介護保険・福祉サービスに関する情報の充実に努めるとともに、介護保険制度や介護サービスの仕組みと利用方法などを紹介した「ガイドブック」を庁舎ロビーや介護健康課窓口に設置し、介護に関わる方の負担が少しでも軽減されるよう努めます。</p>	
目標（事業内容、指標等）	
<p>介護保険制度や介護保険料などの町広報誌への掲載による町民への周知を行います。また、ホームページの掲載についても内容の更新を随時行っていきます。</p> <p>65歳になって、介護保険被保険者になった方や新たに要介護認定を受けた方に対し、介護保険制度や介護サービスの仕組みと利用方法などを紹介した「ガイドブック」の送付を行います。</p>	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・ 町広報誌やホームページへの掲載やガイドブックの送付を行うことができたか。	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果 【 】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<ul style="list-style-type: none">・介護保険制度や介護保険料など、町広報誌へ年3回掲載した。・ホームページについても内容に変更があった場合は更新を行った。・65歳年齢到達者、新規認定者のすべての方に対してガイドブックの送付を行いました。
自己評価結果 【◎】	町広報誌やホームページへの掲載、ガイドブックの送付を行うことができました。
課題と対応策	町広報誌やホームページへの掲載を継続するとともに、よりわかりやすい内容の掲載や必要な情報の掲載を行います。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者の実態把握
------	----------

現状と課題

高齢者の介護予防の取組を強化する介護予防・日常生活支援総合事業が開始されたが、各種事業の利用者が増えていない状況がある。地域の高齢者の状況を把握することで、必要な事業対象者を把握し、事業の紹介などを行なうことで、介護予防に繋がる体制を再構築する必要があります。

第7期における具体的な取組

- ・町内会や民生委員・児童委員等との連携を図ります。
- ・アンケート調査を実施します。

目標（事業内容、指標等）

■町内会や民生委員・児童委員との連携回数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施回数（回）	15回	15回	15回	15回

■アンケート調査回収人数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
配布人数（人）	606	1,766	1,726	1,850
回収件数（人）	545	1,412	1,380	1,480

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・民生委員・児童委員協議会での情報交換の実施回数を集計（3月末）
 - ・アンケート調査の回収人数を集計（3月末）

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果【】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・町内会や老人クラブ、民生委員・児童委員との連携回数 19回実施・アンケート調査回収人数 1,341人 <p>町内会や民生委員・児童委員等との連携、アンケート調査などにより、高齢者の実態把握に努め、介護予防等の普及啓発を推進します。</p>
自己評価結果【○】
<p>【町内会や民生委員・児童委員との連携回数】 連携回数（平成30年度）14回 →（令和元年度）19回。</p> <p>【アンケート調査】 アンケート調査回収人数 （平成30年度）1,069人→（令和元年度）1,341人</p> <p>課題と対応策</p> <p>町内会や老人クラブ、民生委員・児童委員との連携回数は19回実施した。予定していた町内会もあったがコロナウイルス感染症予防により中止となっている。 アンケート調査は、平成30年度から対象を広げ、回収人数も増えた事で、事業対象者も増え、介護予防のサービス紹介や勧奨をより多くの方に行うことができた。 アンケート調査は毎年継続して実施し、高齢者の認知度もあがってきており、苦情もなかった。窓口へ直接来庁される方もいるため、丁寧に対応する必要がある。 アンケート調査の未回収者に対しては、今後も訪問や電話により内容の聞き取りと状況確認を行なっていくこととする。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	家族介護支援の充実										
現状と課題											
<p>高齢者を抱える家族が自宅で安心して介護が続けられるようにするために、介護の知識の習得や介護者同士の交流を行い、介護負担の軽減を図るために介護者等の交流会や介護教室を行う。</p>											
第7期における具体的な取組											
<ul style="list-style-type: none">・介護者等の身体的、精神的な負担軽減につながるよう介護教室や交流会を行う。											
目標（事業内容、指標等）											
<p>■介護教室や家族介護者交流会の実施回数</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度（実績）</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>実施回数（回）</td><td>7回</td><td>7回</td><td>7回</td><td>7回</td></tr></tbody></table>			平成29年度（実績）	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実施回数（回）	7回	7回	7回	7回
	平成29年度（実績）	平成30年度	令和元年度	令和2年度							
実施回数（回）	7回	7回	7回	7回							
<ul style="list-style-type: none">・家族介護者や経験者が集い、茶話会での交流や高齢期の病気にかかる講演会などを開催した。											
目標の評価方法											
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・家族介護者交流会の開催実績を集計											

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果 【 】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
・家族介護者や経験者の交流を目的とした交流会3回、施設見学1回、介護教室2回、リフレッシュ運動1回の計7回実施し、家族介護者への支援を行った。
自己評価結果 【○】
【介護教室や家族介護者交流会の実施回数】 令和元年度 目標7回に対し、実績7回 施設見学や交流会でのテーマは参加者の要望を取り入れながら実施した。
課題と対応策
交流会の参加者は介護経験者が大半で、家族介護中の方の参加が少ないとから、介護者の精神的負担軽減につながるよう介護支援専門員等への普及啓発を継続する。 また、介護教室においては、介護者や経験者に限らず広く周知し、知識を深めることと高齢者や家族介護者を支える地域づくりを目指す。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	在宅医療・介護連携の推進
現状と課題	
<p>医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らし続けられるよう、医療と介護を一体的に提供することが求められているが、まだ十分な環境が整っていない。</p>	
第7期における具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・地域の医療、介護資源の把握・切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築・在宅医療、介護関係者との情報共有・在宅医療、介護連携に関する相談支援	
目標（事業内容、指標等）	
<p>在宅医療・介護連携相談支援窓口の周知、多職種連携会議及び研修会の開催、情報共有ツール「つながり手帳」の作成及び普及について取り組む。</p>	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・つながり手帳の発行実績及び研修会等の開催実績で評価する。	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
<p>■在宅医療・介護連携相談支援窓口の周知 ホームページ、地域包括支援センターだよりチラシ掲載</p> <p>■多職種連携会議及び研修会の開催 1回</p> <p>■情報共有ツール「つながり手帳」の作成及び普及 令和元年6月利用開始。関係機関への事前説明を実施。 交付数16名</p>
自己評価結果 【◎】
<ul style="list-style-type: none">・在宅医療・介護連携相談支援窓口の周知は、町ホームページやチラシを広報誌へ折り込むことで行ったが、周知はまだ不足している。・多職種連携会議及び研修会は、ケアマネジャー連絡会議において事業説明と「白糠町における終末期ケア」について研修会を行った。・情報共有ツール「つながり手帳」は釧路保健所主催で管内市町村との打合せ会議に参加し、令和元年6月から利用を開始した。
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none">・在宅医療・介護連携相談支援窓口の周知 関する相談ができるよう、相談や支援を継続して行う。・多職種連携会議及び研修会の開催 会議と研修会の開催に向けて、多職種が参加しやすい内容と日程を検討する。・情報共有ツール「つながり手帳」の普及 つながり手帳の利用促進のため、関係機関向けに周知を行う。

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">■在宅医療・介護連携相談窓口の周知 ホームページ、地域包括支援センターだより、チラシに掲載■多職種連携会議及び研修会の開催 2回■情報共有ツール「つながり手帳」の普及 交付数 21名
自己評価結果 【○】
<ul style="list-style-type: none">・在宅医療・介護連携相談窓口の周知は、町ホームページや広報誌折込チラシを活用して行ったが、周知についてはまだ不足している。・多職種連携会議及び研修会は、多職種連携学習会としてケアマネジャー連絡会議での学習会(1回)、認知症高齢者への支援についての学習会(1回)を実施した。・情報共有ツール「つながり手帳」の作成及び普及は、運用開始前に関係機関への説明を行い、令和元年6月に利用を開始した。
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none">・在宅医療・介護連携相談窓口の周知の機会を増やす。・多職種連携会議及び研修会の開催 多職種が参加しやすい内容と日程を設定し、在宅医療と介護従事者の連携が図れる研修会の実施を行う。・情報共有ツール「つながり手帳」の普及 つながり手帳を作成し、利用を促進するために関係機関向けに周知を行う。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	認知症対策の推進（認知症地域支援推進員の配置）																				
現状と課題																					
<p>高齢者人口の増加に伴い、認知症高齢者も増加することが予測される。また、認知症は高齢者だけの問題ではなく、若い世代で発症する若年性認知症は、本人や家族の生活全般に大きな負担となっている。</p>																					
第7期における具体的な取組																					
<p>地域包括支援センターに窓口相談員となる「認知症地域支援推進員」を配置し、成年後見実施機関や町消費者被害防止ネットワークなどの関係機関との調整、認知症の方やその家族を支援する。</p> <p>また、どなたでも気軽に集い、交流や相談ができる憩いの場「認知症カフェ」を運営する法人等の取組を支援する。</p>																					
目標（事業内容、指標等）																					
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>平成31年度</th><th>平成32年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>認知症カフェへの支援（カ所）</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>認知症多職種研修（回）</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>相談・支援者数（人）</td><td>19</td><td>21</td><td>23</td><td>25</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	認知症カフェへの支援（カ所）	1	1	1	1	認知症多職種研修（回）	1	1	1	1	相談・支援者数（人）	19	21	23	25
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度																	
認知症カフェへの支援（カ所）	1	1	1	1																	
認知症多職種研修（回）	1	1	1	1																	
相談・支援者数（人）	19	21	23	25																	
目標の評価方法																					
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 中間見直しあり<input type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・支援した認知症カフェの件数を集計（9月末及び3月末）・認知症多職種研修の回数を集計（9月末及び3月末）・相談者、支援者数を集計（9月末及び3月末）																					

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
■認知症カフェへの支援 2か所 ■認知症多職種研修 0回（未実施） ■相談・支援者数 11人
自己評価結果 【◎】
・認知症カフェへの支援は、2か所で行った。 ・認知症多職種研修は、後期に開催を予定する。 ・相談・支援者数は11人だった。
課題と対応策
【認知症カフェへの支援】 認知症カフェの開催に係る周知及び運営や内容などの必要な支援を行う。 【認知症多職種研修】 多職種を対象とした研修会のため、より参加しやすい内容と日程を検討する。 【相談・支援者数】 本人や家族等が地域で困りごとを抱えたままでいることがないように、気軽に認知症に関する相談ができるよう、相談や支援を継続して行う。

後期（実績評価）

実施内容
■認知症カフェへの支援 2か所 ■認知症多職種研修 1回 ■相談・支援者数 19人
自己評価結果 【◎】
・認知症カフェへの支援は、2か所で行いった。 ・認知症多職種研修は、1回開催し、参加者は20名だった。 ・相談・支援者数は19人で計画より下回った。
課題と対応策
【認知症カフェへの支援】 認知症カフェの開催に係る周知及び運営や内容などの必要な支援を行う。 【認知症多職種研修】 多職種を対象とした研修会のため、より参加しやすい内容と日程を検討する。 【相談・支援者数】 本人や家族等が地域で困りごとを抱えたままでいることがないように、気軽に認知症に関する相談ができるよう、相談窓口の周知等の普及啓発を行う。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	認知症対策の推進（認知症の普及啓発の推進）			
現状と課題				
<p>高齢者人口の増加に伴い、認知症高齢者も増加することが予測されます。また、認知症は高齢者だけの問題ではなく、若い世代で発症する若年性認知症は、本人か家族の生活全般に大きな負担となっています。</p> <p>認知症は身近な病気であり、誰もが介護者等として認知症に関わる可能性があることから、地域で支えることができる体制をつくる必要があります。</p>				
第7期における具体的な取組				
<p>認知症の方やその家族を支える「認知症サポーター」を養成します。</p>				
目標（事業内容、指標等）				
■認知症サポーター養成講座の参加者数				
参加者（人）	平成29年度 35	平成30年度 50	平成31年度 50	平成32年度 50
目標の評価方法				
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 中間見直しあり<input type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・認知症サポーター養成講座への参加者数を集計（9月末及び3月末）				

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
認知症の方やその家族を支える「認知症サポーター養成講座」を開催する。
自己評価結果 【△】
前期で認知症サポーター養成講座の開催はなかった。 周知と開催に係る働きかけを行う。
課題と対応策
地域での支え手となる認知症サポーターを増やすため、地域で活動している団体や高齢者と関わる関係機関への周知と講座開催の要請を継続して行う。また、サポーターとしての活動場所についても検討していく。 関する相談ができるよう、相談や支援を継続して行う。

後期（実績評価）

実施内容
認知症の方やその家族を支える「認知症サポーター養成講座」の開催はなかった。
自己評価結果 【×】
認知症サポーター養成講座参加者数の目標を50人としていたが、周知や団体への働きかけが不足し、講座を開催できなかった。 計画的なPRと受講しやすい講座の時間設定等の工夫が必要である。
課題と対応策
地域での支え手になるサポーターを増やすため、地域で活動している団体や高齢者と関わる関係機関への周知と講座開催の要請を継続して行う。また、サポーターとしての活動場所や過去にサポーター養成講座を受講された方へのフォローアップ研修についても検討していく。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	認知症対策の推進（認知症の方と家族介護者への支援）																																	
現状と課題																																		
<p>高齢者人口の増加に伴い、認知症高齢者も増加することが予測される。また、単身高齢者や高齢者のみの世帯が増えており、いつ認知症になっても安心・安全に暮らせるための環境を整備する必要がある。</p>																																		
第7期における具体的な取組																																		
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症による徘徊高齢者の早期発見と、介護者の精神的・経済的負担を軽減するため、位置探索機器（G P S）を無料で貸与する。 ・反射材に登録番号を印字した靴用シールを無料で交付する。 ・認知症が疑われる方やその家族に対して、必要な医療や介護の調整などを行う「認知症初期集中支援チーム」が支援する。 																																		
目標（事業内容、指標等）																																		
<p>■位置探索機器（GPS）の貸与件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> <th>平成32年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸与件数（件）</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>■靴用シール交付件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> <th>平成32年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交付件数（件）</td> <td>10</td> <td>23</td> <td>30</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>■初期集中支援チームによる支援者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> <th>平成32年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支援者数（人）</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>						平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	貸与件数（件）	2	4	35	35		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	交付件数（件）	10	23	30	35		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	支援者数（人）	2	0	4	5
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度																														
貸与件数（件）	2	4	35	35																														
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度																														
交付件数（件）	10	23	30	35																														
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度																														
支援者数（人）	2	0	4	5																														
目標の評価方法																																		
<ul style="list-style-type: none"> ● 時点 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 中間見直しあり <input type="checkbox"/> 実績評価のみ ● 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・月末現在での貸与件数等を集計（9月末及び3月末） 																																		

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・認知症による徘徊高齢者の早期発見と、介護者の精神的・経済的負担を軽減するため、位置探索機器(GPS)を無料で貸与する。・反射材に登録番号を印字した靴用シールを無料で交付する。・認知症が疑われる方やその家族に対して、必要な医療や介護の調整などを行う「認知症初期集中支援チーム」が支援する。
自己評価結果 【△】
<p>【位置検索機器(GPS)貸与】 位置検索機器(GPS)の貸与は、平成29年度から延10件となった。令和元年度より利用に係る費用を無料にし、貸出の目的を徘徊高齢者の早期発見の他、高齢者の外出時の安心安全とし、貸出対象を拡大した。</p> <ul style="list-style-type: none">・位置検索機器(GPS)貸与件数 7件(令和元年度) <p>【靴用シールの交付】 靴用シールの交付は、平成29年度から延28件となった。位置検索機器貸与と同様に事業の周知を行っているが、実際の交付に至る件数が少なかった。</p> <ul style="list-style-type: none">・靴用シール交付件数 5件(令和元年度) <p>【認知症初期集中支援チーム支援者数】 認知症初期集中支援チームによる支援は、地域包括支援センターでの総合相談の範囲内で対応できており、支援チームとして対応が必要となるまでのケースはなかった。</p> <ul style="list-style-type: none">・認知症初期集中支援チームによる支援者数 0件
課題と対応策
利用者数が少ないことは、周知不足や利用しづらいということが考えられるためケアマネジャーや医療・介護事業所をはじめ、広く住民へ周知できるよう普及啓発活動を継続する。

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・認知症による徘徊高齢者の早期発見と、介護者の精神的・経済的負担を軽減するため、位置探索機器(GPS)を無料で貸与する。・反射材に登録番号を印字した靴用シールを無料で交付する。・認知症が疑われる方やその家族に対して、必要な医療や介護の調整などを行う「認知症初期集中支援チーム」が支援する。
自己評価結果 【△】
<p>【位置検索機器(GPS)貸与】</p> <p>位置検索機器(GPS)の貸与は、平成29年度から延15件となった。令和元年度より利用に係る費用を無料にし、貸出の目的を徘徊高齢者の早期発見の他、高齢者の外出時の安心安全とし、貸出対象を拡大した。</p> <ul style="list-style-type: none">・位置検索機器(GPS)貸与件数 12件(令和元年度) <p>【靴用シールの交付】</p> <p>靴用シールの交付は、平成29年度から延31件となった。位置検索機器貸与と同様に事業の周知を行っているが、実際の交付に至る件数が少なかった。</p> <ul style="list-style-type: none">・靴用シール交付件数 8件(令和元年度) <p>【認知症初期集中支援チーム支援者数】</p> <p>認知症初期集中支援チームによる支援は、地域包括支援センターでの総合相談の範囲内で対応できており、支援チームとして対応が必要となるまでのケースがなかった。</p> <ul style="list-style-type: none">・認知症初期集中支援チームによる支援者数 0件
課題と対応策
<p>利用者数が少ないことは、周知不足や利用しづらいということが考えられるためケアマネジャーや医療・介護事業所をはじめ、広く住民へ周知できるよう普及啓発活動を継続する。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者住宅に関する支援										
現状と課題											
<p>要支援・要介護認定を受けている方が、住宅改修を行うことによりつまづいて転倒し、骨折して寝たきりなるのを防いだり、安全に自宅内を移動することができるよう、生活環境を整えるための住宅改修費の給付を行います。</p>											
第7期における具体的な取組											
<p>要支援・要介護認定を受けている方が、可能な限り自宅で安全に生活が送れるよう、段差解消や手すりの設置などの住宅改修に対し、補助対象となる費用の9割（又は7割、8割）を給付します。</p>											
目標（事業内容、指標等）											
<p>■ 1月当たりの住宅改修件数</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>住宅改修件数（件）</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	住宅改修件数（件）	3	3	3	4
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度							
住宅改修件数（件）	3	3	3	4							
目標の評価方法											
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・ 1か月に住宅改修を行った件数を計上											

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果 【 】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<p>利用者の身体状況や住宅の状況を確認し、適切な住宅改修か点検の上、段差解消や手すりの取付など、年間26件、1,969,232円の給付を行うことができました。</p>
自己評価結果 【○】	<p>一月当たり2件の住宅改修の給付を行うことができました。</p>
課題と対応策	<p>今後も住宅改修が必要な方に対し、適切な住宅改修の給付を行います。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者の居住支援
現状と課題	
<p>公営住宅の目的である低所得者に対する住宅供給はもちろんのこと、今後の少子高齢化を踏まえ、高齢者や障がい者、子育て世帯等の安定居住の確保に資する住宅としての役割を果たす。</p>	
第7期における具体的な取組	
<p>少子高齢化が進行している中、子育て世帯や高齢者、障がい者等誰もが安心して住むことができる住環境の整備を図る。</p>	
目標（事業内容、指標等）	
<p>公営住宅の改修に際して、スロープや手すりの設置、居室内の段差解消など高齢者等に配慮した整備をするよう努める。</p>	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	【 】
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	高齢者、障がい者等誰もが安心して住むことができるための住宅改修に努める。
自己評価結果	【○】
課題と対応策	3階建て住宅の1階などの空きがなく住宅改修の実績はありませんが、空きがでれば住宅改修できるよう利用状況を把握するほか、階段の昇降が大変になった高齢者の相談がある時は1階を優先的に入居できるよう調整を行いました。
高齢者が住みなれた自宅で自立して生活が続けられるよう、福祉政策との連携を図り、ソフト面からも高齢者が安心して暮らせる住環境づくりを検討する。	

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	養護老人ホーム										
現状と課題											
<p>老人福祉法に基づく老人福祉施設のひとつです。65歳以上の原則自身の身の回りのことはご自分でできる方で、身体的、精神的、経済的理由で、在宅の生活が困難な方を、福祉の措置により入所を行う措置施設です。設置主体は都道府県、市町村及び社会福祉法人で、施設数は横ばいにあり、鰐根地区には3か所あります。白糠町からは根室市にある施設に1名措置しています。</p>											
第7期における具体的な取組											
<p>措置している方の現況の把握のための施設訪問を継続して実施する。また町内のニーズの把握、施設の空床状況など、関係機関との情報の共有を図ります。</p>											
目標（事業内容、指標等）											
<p>■養護老人ホーム</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>措置数（人）</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	措置数（人）	1	1	1	1
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度							
措置数（人）	1	1	1	1							
目標の評価方法											
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・措置人数を計上。（措置対象者が出現した際にカウントする。）											

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果【】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	
養護老人ホーム措置人員 入所者 1名（男性、平成15年12月入所）	
自己評価結果【◎】	
年1回施設を訪問し本人と面談のほか、施設職員からの施設での状況を聴取している。 本人においては、日常生活動作能力の低下もなく、他の利用者とのコミュニケーションの状況もよく、施設内において活動的な日常を過ごしており、生活に満足していると聴取している。	
課題と対応策	
入所して10年以上経過している。健康に暮らしているが高齢もあり健康管理には注意を要している。入所者においては、親類縁者などの身寄りはなく、要介護状態となり施設替えなどの対応に備え、成年後見制度利用について、施設に働きかけている。	

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	福祉灯油等購入費の助成			
現状と課題				
低所得の高齢者世帯、障がい者世帯及びひとり親等世帯に対し、冬期間の暖房用燃料の多くを占める灯油等の購入費の一部を助成し、経済的負担を軽減することにより生活の安定と福祉の向上を図った。				
第7期における具体的な取組				
毎年白糠町福祉灯油等購入助成事業実施要綱を定め、基準日において満65歳以上の住民のほか要綱に定める住民を対象に事業開始の案内を個別通知のほか広報しらぬかにおいてもアナウンスしている。申請者には灯油60リットル				
目標（事業内容、指標等）				
■福祉灯油等購入費の助成				
世帯数（世帯）	平成29年度 659	平成30年度 660	令和元年度 660	令和2年度 670
目標の評価方法				
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法				
事業の実施期間が冬季間（11月から1月）と短期間であり、事業終了時をもって評価する。				

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果【】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	低所得の高齢者世帯、障がい者世帯及びひとり親等世帯に対し、冬期間の暖房用燃料の多くを占める灯油等の購入費の一部を助成し、経済的負担を軽減することにより生活の安定と福祉の向上を図った。
自己評価結果【○】	令和元年度は交付世帯数663世帯で、目標値を達成した。 灯油に限らず、オール電化の世帯には、灯油60リットル分相當に換算した現金を支給するなど柔軟な対応を行っている。
課題と対応策	灯油兼引き換え期間が11月から1月までと短期間であるが、申請数は増加傾向にある。 60リットル分の灯油と引き換えであるため、少量ずつ引き換えたいとの要望には、事業所の理解と協力を得て対応してもらっている。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	除雪サービス事業			
現状と課題				
在宅の高齢者の冬季間における生活の安全確保と健康維持のためおこなう除雪サービスです。高齢又は身体上の理由により自力で除雪することが困難な65歳以上の高齢者のみで構成する世帯とし、なおかつ、除雪の対応に家族や近隣住民の支援がない方を対象としている。				
第7期における具体的な取組				
今後も、積雪時における住宅の出入り口及び通路の確保をし、生活の安全を図ります。				
目標（事業内容、指標等）				
■除雪サービス事業				
対象件数（件）	平成29年度 23	平成30年度 30	令和元年度 30	令和2年度 30
目標の評価方法				
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法				
事業の実施期間が積雪時であるため、事業が終了した際に評価することとする。				

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果 【 】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	概ね10cm以上の積雪があったとき、又は吹き溜まりの激しい時に、職員が利用者宅を巡回し歩行通路の確保のため除雪を実施した。
自己評価結果 【○】	利用登録者数が30件。令和元年度においては、6回の出役、93件の除雪を実施した。
課題と対応策	独居高齢者が増えていることや、障害を持つ方の高齢化などから利用希望者が増加傾向にある。除雪サービスは、職員が巡回しての作業であるため、実施には時間をしている。除雪に対応する人員の確保が求められる。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護サービス提供基盤の整備・施設サービスの充実
現状と課題	
<p>介護を必要とする方が、安心して介護サービスを利用できるよう、地域包括ケアシステムの構築のための、在宅生活を支える多様な介護サービス提供の基盤整備及び在宅生活を続けることが困難な場合などには、地域密着型施設の整備や施設利用者の安全・安心確保に向けた取組を進めます。</p>	
第7期における具体的な取組	
<p>介護サービスを受けながら在宅生活をしている方や施設サービスを利用している方が、住み慣れた地域で暮らしていくよう、将来のニーズも踏まえたサービスのバランスに留意して、地域の高齢者を支援するための整備を促進していきます。</p>	
目標（事業内容、指標等）	
<p>介護需要等を見極めながら、地域密着型施設の整備や利用者の安全・安心確保に向けた取組を進めます。</p>	
目標の評価方法	
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・ 地域密着型運営推進協議会の開催	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	【】
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<ul style="list-style-type: none">・地域密着型運営推進協議会の開催 1回実施
自己評価結果	【◎】
課題と対応策	<p>地域密着型施設サービスの利用状況を把握し、地域密着型運営推進協議会にて報告することができました。</p> <p>介護サービスの利用状況を把握し、在宅サービスや施設サービスが提供されるよう情報収集に努めます。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護人材の確保及び育成										
現状と課題											
<p>介護職員については、全国的に人材不足となることが見込まれていることを踏まえ、人材確保及び育成の取組を促進する必要があります。</p>											
第7期における具体的な取組											
<p>白糠高校生を対象とした介護職員初任者研修の受講を支援するほか、介護離職を防止するため、職場環境の改善に向けた相談体制を充実するほか、職員の業務負担の軽減に向けた介護ロボット導入やICTの普及促進について、需要を見極めながら検討していきます。</p>											
目標（事業内容、指標等）											
<p>■介護職員初任者研修受講修了者数</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>受講修了者数(人)</td><td>6</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	受講修了者数(人)	6	6	7	8
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度							
受講修了者数(人)	6	6	7	8							
目標の評価方法											
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・ 介護職員初任者研修受講修了者を計上											

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果【】	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<ul style="list-style-type: none">・介護職員初任者研修受講修了者数 6人・介護ロボット導入やＩＣＴの普及促進のための研修会などの案内を事業所へ情報提供を行いました。
自己評価結果【◎】	町内事業所に勤務する職員を含む6名が、介護職員初任者研修を受講し修了することができました。
課題と対応策	介護職員の仕事に対する理解やイメージアップを促進するとともに、介護職員初任者研修を継続して開催することで、資格を取得し離職を防止できるよう介護職員の確保に努めていきたい。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	事業者への適切な指導・監査の実施										
現状と課題											
<p>介護を必要とする方が、安心して介護サービスを利用できるよう、サービスを提供する事業者への適切な指導・助言や支援を行います。</p>											
第7期における具体的な取組											
<p>介護サービス利用者等からの苦情や意見があった場合、適切かつ迅速に対応するため、町職員が苦情相談等の研修会等へ参加します。また、事業者における苦情解決が適切に行われるよう、必要な指導・助言を行います。</p> <p>介護認定更新の調査時において、サービス利用者宅等を訪問するなどし、相談に応じる機会を設け、苦情が無くなるように努めます。</p>											
目標（事業内容、指標等）											
<p>■サービス利用者宅訪問件数</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>訪問件数(件)</td><td>20</td><td>20</td><td>25</td><td>30</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	訪問件数(件)	20	20	25	30
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度							
訪問件数(件)	20	20	25	30							
<p>■事業者等への苦情、指摘事項等件数</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成28年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>苦情等件数(件)</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></tbody></table>			平成28年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	苦情等件数(件)	4	0	0	0
	平成28年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度							
苦情等件数(件)	4	0	0	0							
目標の評価方法											
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・ 介護認定更新の調査時利用者宅への訪問の件数を計上・ 事業者等への苦情、指摘事項等件数を計上											

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果 【】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・町内の地域密着型サービス事業所2か所及び介護予防支援事業所1か所の実地指導を行いました。・介護認定更新調査時にサービス利用者宅への訪問を行いました。
自己評価結果 【◎】
<ul style="list-style-type: none">・介護認定更新調査時にサービス利用者宅への訪問を47件行うことができた。目標の25件を達成することできました。・事業者等への苦情、指摘事項等はなく、0件でした。
課題と対応策
<p>今後におきましても、介護サービス利用者に適切かつ良質なサービスが提供されるよう介護サービス事業者の指定や運営等に対して、適切な指導・監査を実施します。</p> <p>また、認定調査時にサービス利用者宅等を訪問し、相談に応じる機会を設け、苦情等が無くなるように努めます。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	低所得者対策の充実																														
現状と課題																															
<p>介護費用の増加と保険料負担の水準上昇が避けられない中、制度を持続可能なものとするため、低所得者に対する保険料等の軽減が必要です。</p>																															
第7期における具体的な取組																															
<p>今後も低所得者が保険料を負担し続けることができるよう、低所得者に対する保険料等の軽減に努めます。</p> <p>また、社会福祉法人等が行う利用者負担の軽減等に対して、国の要綱等に基づき実施します。</p>																															
目標（事業内容、指標等）																															
<p>■低所得者保険料軽減件数及び軽減額</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>件数(件)</td><td>855</td><td>851</td><td>872</td><td>887</td></tr><tr><td>軽減額(円)</td><td>2,633,400</td><td>2,897,100</td><td>2,903,760</td><td>2,953,710</td></tr></tbody></table> <p>■社会福祉法人等利用者負担軽減件数及び補助額</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>件数(件)</td><td>28</td><td>30</td><td>32</td><td>35</td></tr><tr><td>補助額(円)</td><td>859,600</td><td>1,008,000</td><td>1,075,200</td><td>1,176,000</td></tr></tbody></table>			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	件数(件)	855	851	872	887	軽減額(円)	2,633,400	2,897,100	2,903,760	2,953,710		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	件数(件)	28	30	32	35	補助額(円)	859,600	1,008,000	1,075,200	1,176,000
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																											
件数(件)	855	851	872	887																											
軽減額(円)	2,633,400	2,897,100	2,903,760	2,953,710																											
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																											
件数(件)	28	30	32	35																											
補助額(円)	859,600	1,008,000	1,075,200	1,176,000																											
目標の評価方法																															
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・ 低所得者保険料軽減件数及び軽減額を計上・ 社会福祉法人等利用者負担軽減件数及び補助額を計上																															

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果【】
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
国の補助制度や動向を踏まえながら、低所得者に対する保険料の軽減及び社会福祉法人等利用者負担軽減を行いました。
自己評価結果【◎】
<ul style="list-style-type: none">・低所得者保険料軽減件数 1,598件、軽減額 9,571,750円・社会福祉法人等利用者負担軽減件数 26件、補助額 2,571,250円 <p>低所得者保険料軽減は令和元年10月に実施された消費税増税に伴い対象者及び保険料軽減率の変更があったことによる件数及び軽減額の増となりました。 社会福祉法人等利用者負担軽減の補助額は目標以上の補助を行いました。</p>
課題と対応策
今後も国の補助制度や動向を踏まえながら、低所得者に対する保険料等の軽減に努めます。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護給付適正化への取組（要介護認定の適正化）			
現状と課題				
介護保険制度の健全な運営には、介護を必要とする方を適切に認定し、利用者が真に必要とする過不足のないサービスを事業者が適切に提供するよう促すことが重要であることから、主要となる5事業について取り組みます。				
第7期における具体的な取組				
要介護認定の適正化を図るため、指定居宅介護支援事業所等に委託している区分変更申請及び更新申請にかかる認定調査票を点検します。				
目標（事業内容、指標等）				
■認定調査票の点検実施率				
点検実施率 (%)	平成29年度 100	平成30年度 100	令和元年度 100	令和2年度 100
目標の評価方法				
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/>中間見直しあり<input type="checkbox"/>実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・認定調査票が点検されているか（介護認定審査会において一次判定の修正がないか）・点検実施率は何%か（9月末及び3月末現在）				

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
「要介護認定の適正化」は、要介護認定の変更又は更新認定に係る認定調査の内容について、町職員が認定調査票全件を点検し、また、必要があれば訪問調査を行い、適正かつ公平な要介護認定の確保を図ります。
自己評価結果 【◎】
認定調査票全件を点検し、不備が認められた場合は、その都度認定調査員に確認し、必要に応じて調査票の修正をしました。また、研修会等で認定調査員への指導や助言を行い、認定調査の平準化を図ることができました。 ・9月末点検実施率 100%

後期（実績評価）

実施内容
「要介護認定の適正化」は、要介護認定の変更又は更新認定に係る認定調査の内容について、町職員が認定調査票全件を点検し、また、必要があれば訪問調査を行い、適正かつ公平な要介護認定の確保を図ります。
自己評価結果 【◎】
認定調査票全件を点検し、不備が認められた場合は、その都度認定調査員に確認し、必要に応じて調査票の修正をしました。また、研修会等で認定調査員への指導や助言を行い、認定調査の平準化を図ることができました。 ・3月末点検実施率 100%

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル 介護給付適正化への取組（ケアプランの点検）

現状と課題

介護保険制度の健全な運営には、介護を必要とする方を適切に認定し、利用者が真に必要とする過不足のないサービスを事業者が適切に提供するよう促すことが重要であることから、主要となる5事業について取り組みます。

第7期における具体的な取組

ケアマネジャーが作成したケアプランの記載内容について点検するとともに、ケアマネジャーの「悩み」や「つまづき」を把握し、自立支援に向けたケアプラン作成の支援を行います。

目標（事業内容、指標等）

■ケアプランの点検

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
点検件数（件）	0	10	20	30

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・計画作成者とのヒアリング（面談）を実施し、点検（確認）した件数を計上

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
<p>「ケアプランの点検」は、無作為に抽出したケアプランを点検し、利用者の状態に応じたケアプランが作成されているかを確認します。必要に応じてケアプラン作成のケアマネジャーに対して意見や助言を行うほか、ケアマネジャーを対象とした研修を実施し、ケアマネジャーの質の向上を図ります。</p>
自己評価結果 【△】
<p>ケアプランの点検はできていませんが、後期には実施できるよう事業所との調整はできています。</p>
課題と対応策
<p>ケアプランの点検（確認）ができるスキルを身につける必要があります。主任ケアマネジャーもヒアリング（面談）に立ち会い、給付の適正化や自立支援の考え方を共有します。</p>

後期（実績評価）

実施内容
<p>「ケアプランの点検」は、無作為に抽出したケアプランを点検し、利用者の状態に応じたケアプランが作成されているかを確認します。必要に応じてケアプラン作成のケアマネジャーに対して意見や助言を行うほか、ケアマネジャーを対象とした研修を実施し、ケアマネジャーの質の向上を図ります。</p>
自己評価結果 【○】
<p>主任ケアマネジャー立ち会いの下、ケアプランの点検をし、必要に応じて計画作成者のヒアリング及び助言を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none">・点検件数 12件
課題と対応策
<p>ケアプランの点検（確認）ができるスキルを身につける必要があります。主任ケアマネジャーもヒアリング（面談）に立ち会い、給付の適正化や自立支援の考え方を共有します。</p>

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護給付適正化への取組（住宅改修等の点検）			
現状と課題				
介護保険制度の健全な運営には、介護を必要とする方を適切に認定し、利用者が真に必要とする過不足のないサービスを事業者が適切に提供するよう促すことが重要であることから、主要となる5事業について取り組みます。				
第7期における具体的な取組				
介護サービス利用者の実態に沿って適切な住宅改修が行われるよう、改修工事を施工する前に利用者宅の実態確認や工事見積書の点検を行うとともに、施工後の訪問又は竣工写真等により点検を行います。必要に応じて作業療法士等の専門職の協力を得て、住宅改修等の点検を行います。				
目標（事業内容、指標等）				
■住宅改修等の点検（訪問調査のみ）				
点検件数（件）	平成29年度 0	平成30年度 10	令和元年度 20	令和2年度 30
目標の評価方法				
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/>中間見直しあり<input type="checkbox"/>実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・改修工事を施工する前に利用者の状況確認及び住宅の実態確認が行われているか・改修工事施工後に訪問又は竣工写真等により点検が行われているか・福祉用具購入調査は、訪問調査を実施しているか・福祉用具貸与調査は書面による点検、必要に応じて訪問による点検が行われているか				

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
<p>住宅改修の点検を行い、不適切又は不要な住宅改修が認められた場合は、工事施工業者や担当ケアマネジャーに対して指導を行い、改修工事のやり直しを指示します。</p> <p>「福祉用具購入調査」は、無作為に抽出し、訪問調査を実施します。</p> <p>「福祉用具貸与調査」は、北海道国民健康保険団体連合会の適正化システムから出力される「軽度の要介護者にかかる福祉用具貸与品目一覧表」を活用し、居宅介護支援事業所から事前に関係書類が提出されているか等を確認し、適正な給付であるかを点検します。必要に応じて訪問により確認し、利用者等の身体の状況に応じて必要な福祉用具の利用を進めます。</p>

自己評価結果 【 × 】
書類による確認及び担当ケアマネジャーや福祉用具取扱業者からの聴取等を行いましたが、訪問調査には至っていません。

課題と対応策
訪問調査で確認できる知識がないことから、住宅改修及び福祉用具購入・貸与調査認定に作業療法士等の専門職の協力が得られるよう取り進めます。

後期（実績評価）

実施内容
<p>住宅改修の点検を行い、不適切又は不要な住宅改修が認められた場合は、工事施工業者や担当ケアマネジャーに対して指導を行い、改修工事のやり直しを指示します。</p> <p>「福祉用具購入調査」は、無作為に抽出し、訪問調査を実施します。</p> <p>「福祉用具貸与調査」は、北海道国民健康保険団体連合会の適正化システムから出力される「軽度の要介護者にかかる福祉用具貸与品目一覧表」を活用し、居宅介護支援事業所から事前に関係書類が提出されているか等を確認し、適正な給付であるかを点検します。必要に応じて訪問により確認し、利用者等の身体の状況に応じて必要な福祉用具の利用を進めます。</p>
自己評価結果 【 × 】
<p>書類による確認及び担当ケアマネジャーや福祉用具取扱業者からの聴取等を行いました。訪問調査については作業療法士の専門職とともに住宅改修を行う方の自宅に訪問し、対象者の身体状況に応じた住宅改修の指導を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none">・点検件数 2件

課題と対応策

訪問調査で確認できる知識がないことから、住宅改修及び福祉用具購入・貸与調査認定に作業療法士等の専門職の協力により、より多くの点検を行えるよう取り進めます。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル

介護給付適正化への取組（縦覧点検・医療情報との突合）

現状と課題

介護保険制度の健全な運営には、介護を必要とする方を適切に認定し、利用者が真に必要とする過不足のないサービスを事業者が適切に提供するよう促すことが重要であることから、主要となる5事業について取り組みます。

第7期における具体的な取組

北海道国民健康保険団体連合会への業務委託により実施し、介護報酬請求内容に誤りがあった場合は、適切に事務処理を行います。

目標（事業内容、指標等）

■縦覧点検・医療情報との突合

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
点検実施率 (%)	100	100	100	100

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・点検実施率は何%か（9月末及び3月末現在）

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
「縦覧点検・医療情報との突合」は、北海道国民健康保険団体連合会への委託により全件実施します。介護報酬請求内容の誤り等を早期に発見して適切な処理を行うとともに、医療と介護の重複請求の排除等を図ります。
自己評価結果【◎】
北海道国民健康保険団体連合会への委託により介護報酬請求内容の誤りを適切かつ早期に発見して、過誤申立等を行うことにより適正な給付を行うことができました。 ・9月末点検実施率 100%

後期（実績評価）

実施内容
「縦覧点検・医療情報との突合」は、北海道国民健康保険団体連合会への委託により全件実施します。介護報酬請求内容の誤り等を早期に発見して適切な処理を行うとともに、医療と介護の重複請求の排除等を図ります。
自己評価結果【◎】
北海道国民健康保険団体連合会への委託により介護報酬請求内容の誤りを適切かつ早期に発見して、過誤申立等を行うことにより適正な給付を行うことができました。 ・3月末点検実施率 100%
課題と対応策
引き続き委託により全件実施します。

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル 介護給付適正化への取組（介護給付費通知）

現状と課題

介護保険制度の健全な運営には、介護を必要とする方を適切に認定し、利用者が真に必要とする過不足のないサービスを事業者が適切に提供するよう促すことが重要であることから、主要となる5事業について取り組みます。

第7期における具体的な取組

介護保険に対する理解を深めてもらうとともに、サービスを提供する事業所等からの不正請求の防止を図るため、介護サービス利用者（又は家族）に対して年3回（6月、10月、翌年2月）、利用したサービスの内容や費用等を通知します。

目標（事業内容、指標等）

■介護給付費通知

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
通知回数（回）	3	3	3	3

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・年3回（6月・10月・翌年2月）通知しているか
(6月／前年12月～3月利用分、10月／4月～7月利用分、2月／8月～11月利用分)

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容

「介護給付費通知」は、介護保険に対する理解を深めてもらうとともに、サービスを提供する事業所等からの不正請求の防止を図るため、介護サービス利用者（又は家族）に対して年3回（6月、10月、翌2月）、利用したサービスの内容や費用等を通知します。

自己評価結果 【◎】

介護サービス利用者が自ら受けているサービスを改めて確認することができるため、介護保険に対する理解や給付に対する意識を高めることができたと認識しています。

- ・通知回数 1回（6月実施済）

課題と対応策

引き続き年3回の通知を実施します。

後期（実績評価）

実施内容

「介護給付費通知」は、介護保険に対する理解を深めてもらうとともに、サービスを提供する事業所等からの不正請求の防止を図るため、介護サービス利用者（又は家族）に対して年3回（6月、10月、翌2月）、利用したサービスの内容や費用等を通知します。

自己評価結果 【◎】

介護サービス利用者が自ら受けているサービスを改めて確認することができるため、介護保険に対する理解や給付に対する意識を高めることができたと認識しています。

- ・通知回数 3回

課題と対応策

引き続き年3回の通知を実施します。